



みやぎ生活協同組合

CSR REPORT

CORPORATE SOCIAL RESPONSIBILITY REPORT 2013

2012年度社会・事業・環境活動についての報告書



食品の
安全・安心



メンバーア
社会貢献活動



事業活動



環境活動



COOP
MIYAGI

CONTENTS

理念・ご挨拶	01
みやぎ生協とは	02

ともに歩もう築こう未来 震災復興支援 04~13

01 第1章 食品の安全・安心の取り組み

食品の安全を確保する仕組みをさらに確かなものへ取り組みを強化しています	14
産消直結「めぐみ野」	16
顔とくらしの見える産直をさらに広げました	19

02 第2章 メンバー活動

人と人がふれあう機会をつくり自主的でいきいきとしたメンバー(組合員)活動を進めています	20
くらしと豊かな地域づくり	22
平和とくらしの見直し活動	23
地域社会への貢献	24

03 第3章 事業活動

メンバーのくらしと地域の復興のために	
店舗	28
共同購入	29
くらしのサービス	30
こーぷ福祉会	31
学校部・(株)宮城県学校用品協会	32
機関運営とコンプライアンス	33

04 第4章 環境活動

かけがえのない自然・環境を未来に残していく取り組みを進めています	
理念・方針	34
生協事業におけるCO ₂ の総量削減	35
事業からの廃棄物の削減・再資源化	36
環境に配慮した地域社会の構築	37
商品事業における環境配慮	38
外部環境監査、ISO審査、内部環境監査	39
事業活動と環境のかかわり	40

協同組合の定義・価値

1995年9月に開催された国際協同組合同盟(ICA)100周年記念大会で採択した21世紀に向けた世界の協同組合の活動指針を示す協同組合原則。

◎定義

協同組合は、共同で所有し民主的に管理する事業体を通じ、共通の経済的・社会的・文化的ニーズと願いを満たすために自発的に手を結んだ人々の自治的な組織である。

◎価値

協同組合は、自助、自己責任、民主主義、平等、公正、そして連帯の価値を基礎とする。それぞれの創設者の伝統を受け継ぎ、協同組合の組合員は、正直、公開、社会的責任、そして他人への配慮という倫理的価値を信条とする。



【みやぎ生協のめざすもの】

わたしたちは、協同の力で、
人間らしい暮らしを創造し、
平和で持続可能な社会を実現します。

2011年3月11日の巨大地震・大津波・原子力発電所という過酷な事故から2年がすぎました。この間、日本生協連、コープこうべ、全国の生協、関連する団体、そしてお取引各社からあたたかく力強い支援が続いています。大震災からの復旧・復興に懸命に取り組む関係者のみなさま、ご支援をいただいたすべての方々に、心からの敬意と感謝を表します。

2012年度、みやぎ生協は県内4つのボランティアセンターを中心に、仮設住宅集会所とみやぎ生協施設を活用して被災地・被災者支援に取り組み、のべ631回2万7千人以上が参加しました。「食のみやぎ復興ネットワーク」は217団体の参加で、被災地產品の開発・普及を通して、地域産業・生産者への復興支援に取り組みました。生活文化会館ウィズの1階に「東日本大震災学習・資料室」をオープン、大震災を風化させない決意です。

2012年度、被災した古川南店と石巻渡波店を新装オープン、生協文化会館(石巻)アイトピアホールをリニュアルオープン、本部棟を建て替えみやぎ生協、コープ東北サンネット事業連合・日本生協連東北支所の機能を充実しました。東日本大震災からの教訓を生かし、事業継続計画(BCP)を策定し、本部・TKLC(富谷共同購入物流センター)・各センターに、燃料・水の備蓄、自家発電機の設置、災害備品を配備しました。「みやぎ生協食品安全マネジメントシステム」の運用を積み重ね、生産者とともに「めぐみ野(産直)」品の放射能検査を継続しました。生協事業におけるCO₂総量削減を特に省エネ設備の導入で着実にすすめ、廃棄物の削減・資源化を前進させました。メンバー数は64万4千世帯を超え、東日本大震災での累積損失を解消し、経営を大きく改善することができました。

みやぎ生協は創設者たちの意思と伝統を受け継ぎ、協同組合の理念のもと、震災からの復興に寄与し「みやぎ生協のめざすもの」を実現することに事業活動の最大の価値をおき、役職員一人ひとりが社会・事業・環境活動を推進してまいります。



みやぎ生活協同組合 理事長

齋藤 えつ子



みやぎ生協 とは…

協同組合とは

協同組合は、メンバー（組合員）の共通の願いやニーズを満たすためのメンバーの助け合い（相互扶助）の組織です。イギリスの労働者28人が出資金を出し合い、自分たちの暮らしを守るために必要なものを協同で調達し、分け合う仕組みを作った「ロッヂデール公正先駆者組合」が協同組合の始まり。日本では賀川豊彦らにより、明治時代に本格的な生協が作られました。現在、日本では6,000万人を超える方が生協の組合員です。

みやぎ生協の運営

メンバーの中から選出された総代による総代会が年1回開催され、新たな年度の重要な方針などが決定されます。日常的には、総代会で選出された理事（会）や理事会から負託を受けた常勤理事会が、総代会の決定に基づき事業執行に責任をもちます。

また、監事が理事（会）の業務執行を監査するなど、生協の民主的な運営を確かなものにするため、さまざまな仕組みを設けています。



第31回総代会の様子

2012年度決算概要

2010年度、東日本大震災の被害により69億円の損失が発生し、39億円の累積損失を計上しました。2011年度は復興需要などもあり、供給高・経常剰余とも予算を上回り累積損失を5億6千万円まで圧縮することが出来ました。

2012年度は第9次中期計画目標である累積損失の解消を

みやぎ生協のはじまり

1982年に、宮城県学校生協（1952年設立）と宮城県民生協（1970年設立）の2つの生協が合併して現在のみやぎ生協が誕生しました。2つの生協とも100億円を超える供給高で、当時は大型生協同士の合併ということで全国的にも注目されました。その後、年月を重ね、2012年度は創立30周年を迎えることができました。



みやぎ生協の誕生の様子

みやぎ生協の活動・取り組み

生協は、事業体であると同時に生活者の組織です。人と人が多様にふれあう様々な活動や暮らしを守る活動、子育て支援、食育活動、環境や平和を守る取り組み、ユニセフ活動、社会的弱者への支援など、他の団体やNPO法人などとも連携し、多岐にわたる活動や取り組みを行っています。また、東日本大震災以降、様々な被災者・被災地支援に継続して取り組んでいます。

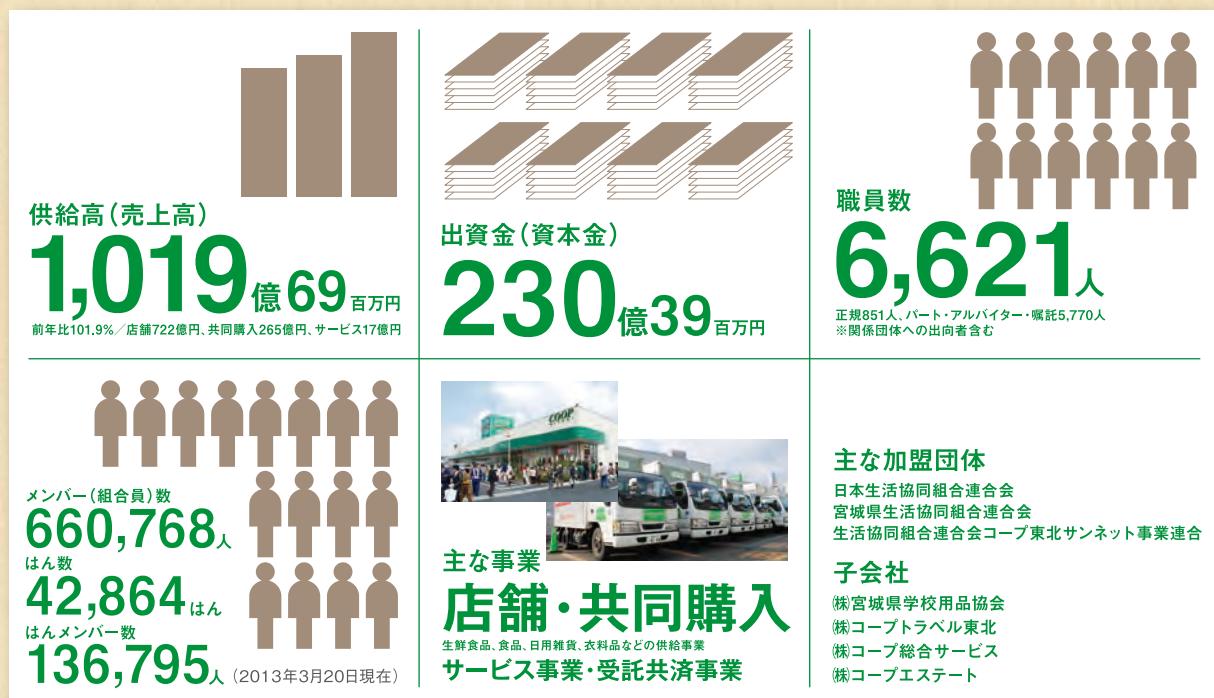


山元町で行われた「ふれあい喫茶」

目指しました。結果としては、店舗事業・共同購入事業ともに供給予算を達成し、当期剰余金は9億8千万円となり、累積損失を解消した上で、3年振りに出資配当を行います。

みやぎ生協の概要

みやぎ生協に加入しているメンバー数は660,768世帯、宮城県内世帯数比70.4%で、全国で最も高い加入率を維持しています。店舗は46店舗、共同購入の配送センターは10ヶ所、その他暮らしに便利なさまざまな事業を展開しています。

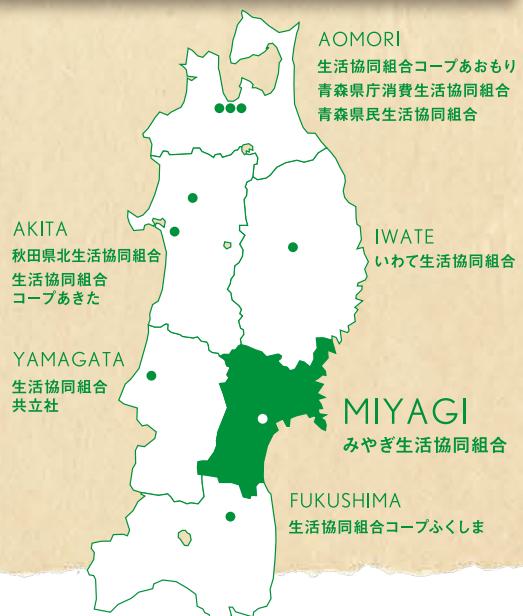


東北6県の生協との連帶

コープ東北サンネット事業連合

1995年に東北の3生協(いわて生協・生協共立社・みやぎ生協)が参加して、サンネット事業連合という組織を作りました。この事業連合は、東北の生協が商品仕入れを統一化、共同で行うことにより、厳しい競争環境の中でも、それぞれの地域で事業経営力の強化を図ることを主な目的としています。

現在6県9生協が加盟しており、みやぎ生協はこの事業連合で中核的な役割を果しています。東北6県の生協が連帶することにより、各会員生協の収益改善に大きく貢献しています。



ともに歩もう築こう未来

震災復興支援

地域で役割を発揮し、
くらしをサポートしています。

ボランティアセンターの取り組み

◎ボランティアセンターの設置と 心の安らぎのための文化企画に取り組みました

2011年5月より、被災された方々のくらしを応援するため、県内4ヶ所（県北、石巻、仙南、仙塩）にボランティアセンターを設置し、医療機関、社会福祉協議会、仮設住宅で見守り活動を担っている団体、民生委員、NPO、お取引先様の企業など他団体と連携しながら、被災された方々に寄り添い孤立化防止や、コミュニティーづくり応援のボランティア活動に取り組んでいます。

◎ふれあい喫茶

仮設住宅集会所や店舗・メンバー集会室など県内51ヶ所（2013年3月現在）で、月に各1～4回程度、一緒にお茶を飲みながらゆったりとおしゃべりを楽しむ活動に取り組みました。参加される方々のリクエストに応え、小物づくりや、かんたんヨガなどの軽体操、暮らしに関する学習、医療機関と連携した健康チェックなども行いました。



蛇田店でのオープンカフェ

被災者懇談会から行政への要望につなげました

9～10月にかけ、被災された方々がくらしの再生・再建のためにどんなことに困っているのか、直接声を聞く被災者懇談会を県内9会場で開催しました。今年1月、出された声を要望書にまとめ、仙台市並びに宮城県へ、提出しました。



亘理店での被災者懇談会

◎子育てひろば

震災により遊び場が少なくなった子どもたちのために、遊び場を提供する活動に取り組みました。ふれあい喫茶との同時開催により、世代を超えた交流の場にもなっています。



岩沼店での子育てひろば&ふれあい喫茶

◎募金活動・手作り商品販売の取り組みなど

毎月定期的に、または、おまつりなどの機会に、募金活動に取り組みました。また、被災された方々や福祉共同作業施設の方々が手作りした商品販売などの取り組みも行いました。



ボランティアセンターの取り組み

◎サポーターの学習会と心のケアに取り組みました

【体験会や学習会を開催しました】

5月、ボランティア体験を兼ねて仮設住宅に花を植える活動を県内8ヶ所で実施しました。10月、ボランティア活動をしている人の体験談を聞いて自分にできることを考える機会を作る学習会に32名が参加しました。9～11月には、各ボランティアセンターごとにボランティアの大切なスキル「傾聴」について学ぶ講座を実施。11～12月と2～3月には、5日間の連続傾聴講座を実施して、234名が参加しました。

【活動に参加するサポーターの心のケアに取り組みました】

各ボランティアセンターごとで、活動しているサポーターの交流会を計11回開催し、のべ400名が参加しました。4～6月に実施した交流会では、主にお互いの活動を話す機会としました。12～3月の交流会では、ボランティアの心がまえと、継続していくために大切なことを学びました。

◎被災地支援コンサート

日常をひととき忘れ、音楽を楽しんでもらう機会を増やそうと、震災後から実施している「震災復興コンサート」。蛇田店を会場にした「シェアリングコンサート」「デュークエイセスコンサート」の他、気仙沼・仙南・石巻からの無料送迎バスを運行しての「古武道コンサート」などを実施し、「音楽に身を任せ、リフレッシュできた」と好評でした。



庄野真代さん、原田真二さんなどが出演した
シェアリングコンサート

◎落語公演

「みんなで一緒に大笑いしたいね」という声から、県内9ヵ所で落語公演を開催しました。5月に、気仙沼の2ヵ所の仮設住宅集会所と石巻2ヵ所（蛇田店・石巻支部）で、1月にはアイトピアホールと仙台市内の2ヵ所の仮設住宅集会所で開催しました。「初めて落語を目近で見ました」という方も、落語で大笑いした後は地域の皆さんのお茶会で楽しいひとときを過ごしていただきました。



5月 仮設住宅集会所での落語会



12月 傾聴ボランティア養成講座

◎ボランティアシンポジウムを開催しました

9月、シンポジウム「被災者支援のボランティア活動を振り返り、継続と発展のために」を開催しました。この間のみやぎ生協のボランティア活動が果たしてきた役割やその成果を確認しながら、復興とよりよい地域づくりにどんなことが必要かを学習する機会とし、121名が参加しました。



シンポジウムの様子

◎フリーリアバスツアー

5月と7月、被災地応援企画「コープ化粧品フリーリア産地バラ園バスツアー」を開催し、仮設住宅などにお住まいの方、計67名が参加しました。「バラの香りに、日頃の疲れた体と心をリフレッシュすることができてとてもよかったです」と喜ばれました。



バラ園見学の様子

◎手作り商品カタログの作成

被災された方々の生きがいづくりや生活再建のため手作り品の製作に取り組む団体や、仕事や販売先が少なくなった福祉共同作業施設などの商品を紹介し、購入を呼びかける「手作り商品カタログ」を、11月と3月の2回、発行しました。被災された方々の団体25、福祉共同作業施設20、計45団体115品目を掲載しました。



手作り商品カタログVol.2

お買い物に関わる様々な支援を店舗や共同購入で取り組みました。

移動店舗 せいきょう便

移動店舗「せいきょう便」は、被災地支援の一環として3月11日の東日本大震災で近隣小売店の閉店、または近隣に小売店がない仮設住宅への入居等で買物に困っている方への商品供給を目的として2011年8月5日より1号車をスタートさせました。

配達地域は、津波被害が大きい石巻市と東松島市の仮設住宅・旧アイピア店(津波で閉店)地区・小売店が閉店している地区、そして私的避難所としました。車両は、2tロングを使用し、生鮮品から雑貨品の生活必需品を中心に約600種類を品揃えしています。

2012年3月21日からは新たに2号車を配置し、被災地域の気仙沼市・南三陸町で営業を開始しております。壊滅的被害のあった気仙沼市と南三陸町の津波被災者の買物支援要望は高く、それに応えることが復興支援として重要と考えています。1・2号車とも営業地域では「せいきょう便の歌」を流して週5日営業しています。



せいきょう便



せいきょう便 買い物の様子

復興くらし応援・期間限定値下げ

メンバーのくらしを継続的にサポートするために、2012年4月より「もっと!くらし応援価格」として通常価格より10~30%値下げした商品を加工肉、デイリー、加工食品、生活関連の各コーナーで約2,400品目展開しています。商品は2ヶ月サイクルで見直しをはかり、季節の中で利用頻度の高い商品を中心に選定しています。震災から3年目をむかえる2013年度は、震災を乗り越え、東北を元気にする企画とすべく「東北元気価格」としてネーミングも一新し、サンネット統一企画としていわて生協、生協共立社、みやぎ生協、コープふくしまのメンバー(組合員)に、引き続きお求め安い価格で提供します。

こ~ぶ ふれあい便

「こ~ぶふれあい便」は、週2回店舗で扱っている商品を自宅までお届けする買物代行サービスで、震災前から高齢者や身体の不自由な方などを対象にした福祉サービスとしてすすめてきました。震災後には被災地域を中心にお買物の不便さを感じている方への支援策として湾岸地域も配達エリアとして拡大してきました。子育て・妊婦の方・家族の介護など、買物代行サービスの利用ニーズは多様化しております。地域メンバーの不便さを解消するために「こ~ぶふれあい便」の良さ・便利さをお知らせして利用者拡大の取り組みをすすめるとともに「安否確認」業務も県内各市町村と連携し「高齢者見守り活動」として更に推進していきます。

「ふれあい便」対象店舗は、以下の14店舗です。

西多賀店、黒松店、桜ヶ丘店、富沢店、幸町店、国見ヶ丘店、六丁の目店、柳生店、亘理店、塩釜杉の入店、愛子店、名取西店、八木山店、蛇田店



ふれあい便 配達の様子

COOP

もっと!
くらし応援価格

このPOPが
目印です。

東北
元気価格

このPOPが
目印です。



被災者支援サービス

東日本大震災で被災した方々を対象に、個人宅配を100円で利用できる仕組みとして開発した『被災支援サービス』は、1万1,589名のメンバーにご利用いただいている。当初は震災から1年後の2012年3月で登録の受け付けを終了する予定していました。しかし、被災地では引き続き長い支援が必要なことから、共同購入では登録の受け付け期間を2012年9月まで半年間延長しました。また、個人宅配を100円で利用できるサービス期間も最長で2年間だったものを、登録時期に関わらず一律で3年間へと延長しました。被災地、とくに応急仮設住宅は買い物に不便なところも多く、たくさんのメンバーに『被災支援サービス』の延長をよろこんでいただきました。

ニュージーランドでの被災地高校生の農業体験

風評被害に苦しむ福島県の生産者を応援するため、福島県産の農産物を詰め合わせた『福島県産絆ボックス』を企画し、8月1週～10月5週までご案内を継続し、13,128箱の利用がありました。また、この商品では1箱につき100円の積み立てとお取引先様の協賛により「築こう未来プロジェクト」を企画し、被災3県の高校生15名をニュージーランドでの農業研修に招待しました。



福島県産絆ボックス



ニュージーランドでの被災地高校生の農業研修

イベントカー

共同購入イベント車とジャイロキャノピー（三輪バイク）をフル活用し、沿岸被災地での共同購入のお役立ち提案に継続的に取り組みました。生協店舗でおこなわれた秋祭りなどのイベントにも積極的に参加し、延べ来場者は1万8千名を超え、応急仮設住宅での共同購入加入世帯数も3,864件になりました。



イベント車の活動の様子

石巻支部 気仙沼支部での復興夏祭り

2012年8月には沿岸被災支部の石巻支部と気仙沼支部で『復興夏祭り』を開催しました。石巻で約1,500名、気仙沼で約2,000名の来場者となり盛大な夏祭りになりました。生協のメンバーをはじめ、近隣の仮設住宅などにお住まいの方など、市民の皆様にも楽しく参加していただきました。お取引先様にもご協力をいただき、出店した産地復興応援商品はすべて完売、売上金は全額被災者への義援金としました。



復興夏まつりの様子

共同購入ステーション

共同購入ステーションは新たに石巻生協文化会館アイティアと東松島市東名地区集会所で開設しました。現在8箇所で320名のメンバーにご利用いただき、お買い物だけではなくコミュニティの場所としても活用していただいています。ステーションを利用されているメンバーは支部職員との会話やご近所さんとのふれあいを楽しみに足を運んでいます。



共同購入ステーション

地域産業・生産者への 復興支援

地域産業を支援するため
商品開発・イベントなどに取り組みました。



食のみやぎ復興ネットワークとは

東日本大震災により、多大な被害を受けた宮城県内の農業・漁業関係者や食品関連産業者が、互いに励まし合いながら地域復興を目指すことを目的として、2011年7月に結成しました。

2年目を迎えさらに活動が拡がっています

食のみやぎ復興ネットワークの活動は2年目を迎えました。活動の輪は大きく拡がり、参加団体は217団体(2013年3月20日現在)となりました。参加団体、マスコミ、行政関係者約300名に向けたメールマガジン(毎月2回)発行を通じて情報の交換と発信を行いました。プロジェクト活動にも取り組み、宮城県産品、県産原料を使用した加工品、県内工場加工品の開発や普及を進めています。その数は1次産品は3品、県産原料使用品は22品、県内工場製造品11品目となりました。プロジェクト活動で取り組んだ一次産品の加工食品原料としての利用にも挑戦し、6品目を加工品原料として計画しています。



第2回総会(勝山館)

◎つくる 食べる ずっとつながるキャンペーン

ロゴマークを作製し、つくる 食べる ずっとつながるキャンペーンに取り組みました。9月からはアイキャッチャーで商品をおすすめしました。その総数は200品目、供給数量567万個、供給高10.7億円を超え、利用者は34万人(県内世帯の36%)を超えるなど、多くのメンバーに支えられた商品に育ちました。21回のプレスリリースを行い、マスコミに取り上げられた回数はのべ42回となりました。



食ネット売場

なたねプロジェクトに取り組みました

岩沼市東部の塩害農地での菜種栽培と商品開発を通じて、生産者を支え地域を励ます「なたねプロジェクト」に取り組みました。5月の菜の花を見る会には岩沼市長をはじめ150名が参加しました。



菜の花を見る会(岩沼)

菜の花からは50kgの蜂蜜、菜種からは菜種油700kgが採れ、地域の製造業者の手で瓶詰め蜂蜜、はちみつ飴、なたね油、なたね油ドレッシングを商品化しました。



希望の菜の花蜂蜜(石塚養蜂園)



菜の花はちみつ飴(蔵王の昔飴本舗)

なたね畑に隣接する玉浦小学校、玉浦中学校になたね油を贈呈し、学校給食で子どもたちにふるまわれました。当日は関係者で中学校を訪ね、活動を紹介し、一緒に給食を食べました。



玉浦中学校給食



みやぎを元氣にするふるまい企画

被災地みやぎに寄り添い、元気づけ、復旧復興にむけた動きを励ますことを目的に、みやぎ生協店舗を使用した「みやぎを元氣にするふるまい企画」に取り組みました。キッチンカーを使ったメニューの提供やおいしいコーヒーの淹れかた教室、生活用品のサンプルセット配布、着ぐるみを使ったお菓子の配布と子どもたちとの撮影会、めぐみ野品を使ったメニューの提供など、参加団体の思いを込めた企画が開催されました。12年度ではのべ286団体が238の企画を実施しました。このうち、県民防災の日周辺(6月9~12日)では34団体で35企画、防災の日周辺(9月1~2日)では49団体で58企画、震災から2年を迎える時期(3月2, 9~10日)には65団体で65企画が開催されました。9月と3月に開催した際はめぐみ野生産者支援募金にも取り組みました。



県民防災の日ふるまい企画(亘理店)

プロジェクト活動から生まれた商品

◎仙台はくさい

大正から戦前にかけて宮城県の白菜生産量は日本一。仙台はくさいは柔らかく甘みがあるおいしい白菜です。震災後、JA全農みやぎ、明成高校、宮城農業高校などと仙台はくさいプロジェクトを立ち上げ、塩害に強い白菜の栽培を通じて県内農業再生に取り組みました。



仙台はくさい収穫イベント(名取市)

◎秘伝豆

秘伝豆は東北地方の伝統種で、香りに優れた大粒で甘みの強い白目の青豆(枝豆)です。村田町での作付拡大を応援し、新しい宮城の特産品づくりに取り組んでいます。



秘伝豆収穫イベント(村田町)

◎厚切りベーコン

宮城県産豚肉を使用したベーコンです。塩竈の藻塩を使ってまろやかな味に仕上げました。みやぎの豚肉復興プロジェクトでは商品の開発と利用のおすすめを通じて宮城県産豚肉の消費拡大に取り組んでいます。



宮城県産豚バラ肉使用厚切りベーコン180g
(株式会社加工連)

◎地元で作った魚漬け各種(コーパフーズ東北)

永田醸造株式会社(亘理町)、株式会社仙台水産、みやぎ生協が取り組む「地元で作った漬魚プロジェクト」開発商品です。塩麹や醸造味噌などの伝統的発酵調味料に魚を漬け込み、旨みを醸し出しました。おいしい漬け魚の提供と宮城の伝統技術、食文化の継承に取り組んでいます。



「地元で作った漬魚プロジェクト」商品の売り場

◎あおばの恋焼きそば3食入り(株式会社だい久製麺)

宮城県の推奨品種「あおばの恋小麦」を使用した麺の第3弾商品です。麺は食べ応え十分な、もちもち感のある太麺に仕上げました。ソースはスパイシーで風味豊かな味に仕上げました。



あおばの恋焼きそば(株式会社だい久製麺)

◎そのまんま煎り豆

(社会福祉法人はらから福祉会)

宮城県産大豆を100%使用したスナック感覚で食べられる煎り豆です。県産大豆の用途拡大に向けた様々な取り組みから生まれた商品です。



そのまんま煎り豆(はらから福祉会)

学校部としての支援・活動

◎みやぎの子どもたちに笑顔を！

学校用品協会では、2012年度子どもたちの「心のケア」となる活動を行ってきました。夏休みに実施した「思い出づくり体験学習プラン」には小学生約600名がディズニーランド、ANA機体工場の体験学習、中学生約80名は北海道東川町農場体験・旭山動物園などの体験学習を行い、思い出に残る貴重な体験ができました。

学校へ出向いての支援では「リコーダーアンサンブルコンサート」を県内小学校11校で開催、夏休み石巻地区で開催した凧揚げ作り教室、提携住宅メーカーの協力で南極観測隊スタッフによる「南極クラス」を県内の学校6校で開催しました。“未知の世界”である南極での活動を伝えることで、未来を背負う子どもたちに夢と希望を届けました。

また冬休みに被災した学校や仮設住宅では思うように書き初めの練習も出来ない学校・児童生徒のために「書きぞめ教室」を開催し、父兄も含めて50名を超える参加がありました。

◎被災校へのクレヨン・図書館図書の寄贈

気仙沼の幼稚園・保育所に取引先の協力でクレヨン1千セットを寄贈しました。

また図書関連の取引先や他県学校用品会社よりの支援を受けて学校図書館図書の寄贈を行いました。(石巻市・名取市・岩沼市各5校、気仙沼・登米地区5校へ寄贈)



クレヨンをもらった幼稚園児



思い出づくり体験学習プラン 小学生 全日空機体工場見学



リコーダーアンサンブルコンサート

アクアクララみやぎ生協の取り組み

震災被害にあった地域、県内42施設へウォーターサーバーを設置し年間で2,700本のアクアクララ水の無償支援を行いました。

現在は、震災被害の癒えない牡鹿地区の保育所、南三陸町のボランティア拠点、名取市仮設住宅集会所、めぐみ野復興のシンボル宮城県漁協志津川支所などへサーバー設置、水ボトルの無償支援を継続しています。



南三陸町社会福祉協議会 横山サテライトセンター

サービス事業の取り組み

◎サービス事業では車検事業によって地域や社会に貢献いたしました

生協車検は、「東日本大震災みやぎこども育英募金」への寄付も開始しました。入庫1台に付き100円の募金で集まった前年度入庫分340,400円を「みやぎ生協提携車検工場会」として寄付を行いました。12年度は「東日本大震災みやぎこども育英募金」だけではなく、「緑の基金」にも寄付することとし、「生協車検紹介キャンペーン」などでより多くの利用をメンバーに呼びかけました。

また、全ての生協車検提携工場が「こども110番の家」と「災害時協力工場」として参加登録し、住宅地に点在する業種特性を生かし、暮らし一般で安全安心を追求する内容として前進しました。



宮城県保健福祉部次長室にて目録をお渡しました



3.11 東日本大震災を忘れない

東日本大震災大震災を風化させないこと、
大規模災害時に社会的役割を果たすことは
みやぎ生協の大きな責任です。

東日本大震災学習・資料室の設置

東日本大震災を風化させず、また、震災発災以降にみやぎ生協が取り組んだことを学び理解し、後世に伝え続けるための施設として、2013年3月5日に文化会館ウイズ内にオープンしました。みやぎ生協に新たに入協した職員は全員、この施設で学ぶことを義務付けています。



東日本大震災学習・資料室



学習・資料室の様子

学習・資料室には約40坪のスペースの中に、発災以降の取り組みを写真や解説文で紹介するとともに、被災された方の手作り品や、食の宮城復興ネットワークで開発した商品など約100点が展示されています。また、活動の動画を見ることができるシアタールームも併設しています。メンバーや全国の生協の皆さん、お取引先の方もぜひ一度ご覧ください。

災害救援物資に係る業務委託契約

みやぎ生協は、2013年3月現在、県内22の自治体と災害時の物資供給協定を締結しています。

これとは別に、仙台市と2012年11月1日、災害救援物資に係る一定量確保業務の業務委託契約を締結しました。

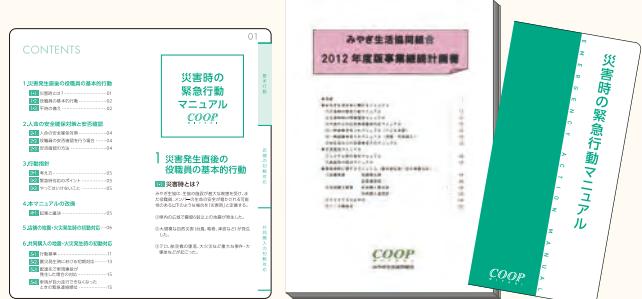
この契約は、仙台市がより確実に一定数以上の物資を確保するため、通常の供給協定による調達ではなく、みやぎ生協から物資を購入した上で、在庫を確保しておくというものです。

具体的には、仙台市に子ども用紙おむつ、大人用紙おむつ、生理用品、おしりふきなどを購入いただき、みやぎ生協が保管、要請があれば仙台市指定の配送先へ搬送するというものです。総数で約400ケース、約20万点となります。

BCPの策定と検証訓練

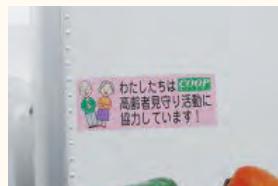
大規模災害発生時に生協の事業をできる限り継続すること、そして、行政からの要請に応じて緊急支援物資を手配・配達し続けるために、今までの震災対応マニュアルを全面的に改訂した「みやぎ生協事業継続計画(BCP)」を作成しました。

また、2つのことを必ず行うために、燃料、水、電気、通信機器などのインフラもある程度自前で用意しました。訓練も定期的に行っており、必要な変更を加え、より実効性のあるBCPにしていきます。



高齢者見守り活動

2012年10月17日、みやぎ生協は、宮城県と「高齢者見守りの取り組みに関する協定」を結びました。その後、仙台市を含む県内全ての35市町村とも協定を結び、「地域のみんなで見守る体制」つくりに協力しています。みやぎ生協の共同購入事業は、毎週1回、同じ配送担当職員が、定曜日の決まった時間に商品をお届けしています。だからこそ、ちょっとしたことでも「いつもと違う!」に気づくことができるのです。配送担当者がメンバー宅を訪問した際、気になることや異変があった場合には、所属事業所の所属長に連絡し、所属長は各自治体の窓口(役所の高齢者担当セクション、社会福祉協議会、地域包括支援センターなど)へ連絡します。配送担当者が緊急性のある事態と判断した場合には、直接、緊急車両を呼ぶこともあります。



共同購入配達トラック

個配メールサービス

個配メールサービスは通信手段が寸断された東日本大震災の直後においては、とくに沿岸被災地にお住まいのご高齢のメンバーとそのご家族に大変喜ばれたサービスです。震災前は311名の登録者数を数えましたが、震災後には183名にまで激減していました。2012年度はご家族が帰省されるお盆に合わせて個配メールサービスのご提案をおこない、震災前を大きく上回る436名にまでご利用されるメンバーを増やすことができました。もともとは共同購入の個人宅配をご利用されるご高齢のメンバーを対象に開発したサービスですが、現在では夕食宅配をご利用されるメンバーにも対象を拡げ、離れて暮らすご家族の方に週一回、お届け時の在宅状況をメールでお知らせしています。



Case:01

共同購入の配達時に、玄関のチャイムを鳴らしましたが返事がありませんでした。いつも在宅しているメンバーさんだったので心配になりました。玄関が開いていたので居間の中を覗き込んだところ、メンバーさんが苦しそうな表情を浮かべていました。その場から救急車を呼びメンバーさんを病院に搬送していただきました。その後、メンバーさんは元気になられ今も共同購入をご利用いただいています。

Case:02

午後3時頃に夕食宅配の配達に伺ったところ、メンバーさんが腕から血を流して倒れていきました。聞くと前日の夜8時頃に自宅階段で足を滑らせて転倒してしまい、自力で立ち上ることもできず、ショックで声も出せず、19時間もそのままになっていたとのことでした。すぐに救急車を呼んで病院に搬送していただきました。幸いメンバーさんは大事に至らず、後日、離れて暮らすご家族の方からも感謝のお電話をいただきました。

夕食宅配サービス

みやぎ生協の夕食宅配サービスは、原材料は生協の添加物基準内で使用し、衛生面の行き届いた工場で製造しています。栄養士の監修のもと、メンバーの健康を考えたバランスの良い献立作りを心がけています。季節感を取り入れた食材、彩り鮮やかな日替わりの献立で“ふれあい”と“安心”をお届けします。



夕食宅配スタッフ



夕食宅配の様子

コープトラベル

◎産直ツアーを開催しました

2012年9月15日 産直ツアーふくしまを催行し、原発事故の影響に苦しむ、ぶどう、梨の生産者とメンバー41名で交流してきました。



産直センターふくしま見学



大切な食べ物を必要としている人に届けます。



フードバンクには毎月、提供先施設、団体などからたくさんの喜びの声、お礼状が届きます。これらの手紙はもちろん提供先企業様にもフィードバック。届いたその声の一部をご紹介します。

声

児童養護施設からの



キャラクター名
「Furei-shi」

(小学生から頂いたお手紙より抜粋)

心　私たちのために、エクレアアイスやペッットボトル飲料水をくださいありがとうございました。みんなで喜んでいただきました。エクレアアイスは、甘くておいしいかったです。(途中省略)

寒い日が続いますがお体にきをつけてお仕事を頑張ってください。

心　わたしたちのために、ジュースやチョコ、アイス、ゼリーなどのおかしをたくさんください、ありがとうございました。ももとぶどうのジュースがとてもおいしかったです。おかしもおへやのみんなでたべました。(途中省略)

心　こしもおしごとがんばってください。

cope food bankの輪が広がっています!

法人
サポーター
32社

一般
サポーター
54名

食品提供
企業
33社

提供先
施設・団体
99団体

(企業から食品の寄贈数量
55,649kg
(およそ56t)

金額にして
約3,350万円
分に相当

提供・提携企業を募集しています。

〈主な寄贈品〉



(2012年4月～2013年3月20日現在)

2013年3月20日現在、法人サポーター企業様32社。(順不同)

- マルニ食品株式会社
- 東北国分株式会社
- 大塚食品株式会社
- 日本生活協同組合連合会
- 加藤産業株式会社 仙台支店
- 株式会社 サービス商会
- 株式会社 サイコー
- 株式会社 ブランディング・オフィス
- JAかごしま茶業株式会社
- 株式会社 ハーライス宮城
- 株式会社 日本アクセス
- 三井食品株式会社 東北支社
- 株式会社伊藤園 南東北地区量販店課
- 株式会社ディリーフーズ 東北支店
- 株式会社東日本事業本部
- あいおいニセイ同和損害保険株式会社東北本部
- 株式会社サン・ベンディング東北
- 株式会社い久製麺
- 株式会社仙台水産
- 株式会社イネット
- 株式会社仙水センター
- 株式会社丸水配達
- 株式会社第一エージェンシー
- 仁科会計事務所
- 佐川印刷株式会社
- 株式会社エヌ・データファイブ
- 江崎グリコ株式会社
- 株式会社神奈川クリエーニング
- 株式会社ボイス仙台支社
- イカリ消毒仙台本社
- パナソニックES産業システム株式会社東北支店
- 三協青果株式会社

2013年3月20日現在、ご提供・提携企業様33社。(順不同)

- キユーピー株式会社 仙台支店
- 株式会社仙水センター
- 株式会社丸文配達
- 日本生活協同組合連合会
- 株式会社仙台水産
- マルニ食品株式会社
- 株式会社伊藤園
- 仙台伊藤園勝山酒造株式会社
- 株式会社北館製麺
- 株式会社仙台水産
- 大塚食品株式会社
- キユーピー株式会社
- カルビス株式会社
- 三井農林株式会社
- 服部コーヒーフーズ株式会社
- 株式会社バーライス宮城
- 株式会社ロッテリアイス
- 玉松味噌醤油株式会社
- 東北国分株式会社
- 石井食品
- 株式会社ディリーフーズ 東北支店
- 株式会社日本アクセス 東北支店
- 味の素セネラルフーズ株式会社



放射性物質問題への対応

◎放射能検査

検査の対象を、昨年度までの「めぐみ野（産直品）」品に加え、COOP商品やアクアクララ水、一般市場品の農産物や水産物に拡大しました。2012年は約401検体の検査を行いました。検査で問題となるような結果はありませんでした。検査結果はホームページや店頭掲示、共同購入の納品書で報告しました。

また、昨年に引き続き全国の生協や日本生協連と協力して、実際の家庭の食事に含まれる放射性物質の量に関する調査に取り組みました。前年は県内10世帯の参加で1回の調査でしたが、2012年度は対象を50世帯に拡大して2回取り組みました。2回の調査を通じ1件のみの検出（セシウム137が1.1Bq/kg）でした。これまで放射能検査は外部検査機関で行っていましたが、ゲルマニウム半導体検出器を購入し、2013年5月より商品検査センターで行います。



放射能検査の様子

食品の安全を 確保する仕組みを さらに確かなものへ 取り組みを 強化しています

みやぎ生協 食品の安全・安心に関する基本方針

みやぎ生協は、メンバー（組合員）が安心して商品を利用できる生協づくりを進めます。取引先および生産者と共に、取り扱う食品の安全管理のレベルを向上させ、食に関するメンバーの願いの実現を目指します。

そのために、以下の基本方針に基づく取り組みを進めます。

1. 取引先、生産者、メンバーとコミュニケーションをはかり、生産・仕入れ・製造・加工・メンバーへの供給の各過程を通して、食品安全性を高めます。
 - (1) 食品の安全マネジメントシステムで適切な課題・目標を設定して実行し、その進捗状況を検証し、定期的に見直し、継続的な改善ができる仕組みをより確かなものにし、運用します。
 - (2) 重大商品事故の兆候を見逃さない仕組みを向上させるとともに、万が一重大商品事故が発生したときの被害を最小にするため、対応方針・手順を明確にし、訓練します。
 - (3) 安全な食品をお届けするために必要な職員の力量を高めるために、教育・啓発を計画的に行います。
2. 食品の安全や衛生に関する法令・規制を順守するとともに、必要に応じてそれらに基づく内部ルールを制定し管理を進めます。
3. メンバーと産直生産者の交流を活発にし、「顔とくらしの見える産直」活動の輪を広めます。
4. 県内産・国内産食品の取り扱い拡大と食料自給率の向上に寄与する活動を進めます。
5. 食に関する学習・体験の活動にメンバーや他団体と協力して取り組み、安心できる食生活の実現に貢献します。

この食品の安全に関する基本方針は、生協内外に公表します。

2011年4月22日 みやぎ生活協同組合

◎メンバー学習講演会

「放射線にどう向き合うか～正しい知識を身に付け 安全にくらすために」を開催しました

6月25日(月)仙台市福祉プラザ、7月6日(金)楢木生涯学習センター、7月23日(月)みやぎ生協加賀野店集会室の3会場で、日本大学准教授野口邦和さんを講師にメンバー学習会を今年度も開催しました。約250名のメンバーが参加し、「放射性物質は、どのようにして私たちの体に入ってくるのですか?」「私たちは食事を通してどれ位被ばくしているのですか?」「被ばく量を少なくするにはどうすればいいですか?」など、普段のくらし方で気をつけるポイントなどをお聞きすることができました。



日本大学 野口准教授の講演

◆ 食品の安全に関する詳細はこちらからご覧になれます。<http://www.miyagi.coop/products/safety/radiation/>



01

食品の安全・安心の取り組み



02

メンバー活動



03

事業活動



04

環境活動

「みやぎ生協食品安全マネジメントシステム」の運用を継続し改善を積み重ねています

◎食品安全マネジメントシステム

- ①各部署が「食品安全・安心基本方針」に基いた目標と、それを実現するための教育・実施・検証の計画を立て、毎月進捗管理をして活動を進めています。
- ②内部監査や外部検査の結果などもふまえて、取組みの有効性を評価し、目標が達成できない場合には、その原因を明らかにして対策を補強していくことで改善を積み上げています。

重大商品事故管理システム



お申し出情報管理室

◎商品事故対策室

重大商品事故の兆候を見逃さないため、お申し出の対応や判断に誤りが無いか、事故の原因と再発防止策がしっかりと行われているかなど、最後までしっかりと監視を行っています。

2012年度も、重篤な人体被害などの重大商品事故に発展した案件はありませんでした。

◎品質管理・商品検査の取り組み

(品質管理室・商品検査センター)

メンバーに安心して商品を利用していただくために、食中毒の原因となる微生物検査や「めぐみ野」野菜(産直野菜)の残留農薬の検査等を行い、結果を衛生改善や栽培指導に役立てています。

1)微生物検査は10,809検体おこないました

累計	総検体数	共同購入配達商品	店舗調理加工商品	店舗一般メーカー商品(テナント含む)	COOP商品・コープフーズ東北生産品	取扱事前検査など
検体数	10,809	2,830	2,968	1,488	268	3,255

検査結果から、取り扱い停止の対応を行った商品はありませんでした。

2)残留農薬検査は372検体おこないました

累計	総検体数	産直野菜	産直米
検体数	372	345	27

検査結果は全て残留基準値内でした。

◆食品安全に関する詳細はこちらからご覧になれます。<http://www.miagi.coop/products/safety/>

◎2012年度の改善例

- ①店舗事業では、店内のアレルゲン表示間違いの削減と店内加工の衛生レベルアップに取り組み、衛生レベルを向上させました。
- ②コープフーズ東北は、生産品のラベル表示間違いと衛生レベルアップに取り組み、「仙台HACCP」レベル7の認証を取得しました。
- ③(株)コープ総合サービス・水事業センター(アクアクララみやぎ生協)では、内部監査を繰り返して工場の衛生レベルの改善が進みました。
- ④共同購入事業では重大商品事故の兆候を見逃さない仕組みづくりに取り組み、報告事項の漏れを大幅に少なくしました。カタログのアレルゲン表示間違いを削減しました。

◎商品事故に関する監視と改善

東北6県の生協と商品事故の情報を共有し、各生協の担当者が学習を重ねることで監視を強めています。

また、商品事故対策室から定期的に情報発信を行うことで、メンバーさんに回答するまでかかる平均日数を適切に維持することが出来ました。また、農産品などでは、同一商品でお申し出の多い商品の事故情報を適宜商品担当者に発信することで、お申し出件数の改善にもつなげています。



商品検査の様子

◎COOP商品の原材料の確認

みやぎ生協が指定した原材料で、検査で検証可能な35品目のCOOP商品について、外部検査機関で検査を実施しました。その結果、適切に使用されていることを確認しました。

項目	遺伝子組み換え	肉種判別	品種判別	成分分析	ソバ粉配合割合	産地判別
検査品目数	13	1	9	3	1	8

「手作り餃子農薬混入事件」のときに決意したこと・反省したことを見化させないために、毎年2月度を「餃子事件を教訓とする月間」(略称「餃子月間」)として、事件の内容と作り上げてきた食品安全を確保するための方針やルールを全職員が学習しています。

めぐみ野は 2012年9月に1周年を迎えました。

私たち生産者は安心・安全と
おいしさにこだわり作りつづけます。

「めぐみ野」3つの基準

- ①だれ(生産者)がどこ(产地)で作ったかがわかること。
- ②どのように(栽培・飼育)作ったかがわかること。
- ③生産者とみやぎ生協のメンバーの交流があること。



01

食品の安全・安心の取り組み



02

メンバー活動



03

事業活動



04

環境活動

みやぎ生協の産直ブランド

「めぐみ野」

42年前に、みやぎ生協の前身「宮城県民生協」の組合員と生産者の方々が「顔とくらしの見える産直」を始めました。生産者と消費者の食に対する思いを直接結ぶことで、共に幸せを分かち合う「産消直結」への取り組みです。これが「産直」の始まりです。

さらに、未来へ向けて新たな一步を踏み出すために、この取り組みから生まれた商品に「めぐみ野」という名前を付けました。商品パッケージのイメージを全商品で統一し、演出物デザインも統一しています。みやぎ生協のホームページでも紹介していますので、是非ご覧ください。「めぐみ野」には、キャラクターが登場します。生産者の、ゲンさんと奥さんのサトさん、みのり一家は消費者家族です。

東日本大震災で破壊された地域コミュニティの再生のために、そして生産者と消費者が手を取り合って一次産業の復興を目指すためにも「めぐみ野」を活性化させていきます。

産直の三つの基準①産地と生産者が明確 ②生産方法が明確 ③生産者と消費者の交流は「めぐみ野」にもそのまま継承されています。

◎みやぎ生協の産消提携活動

みやぎ生協の「めぐみ野」の事業と運動は、生産者と消費者の共通の願いを実現するために、次のような基本的な立場で提携活動を進めています。

①健全な日本型食生活の確立と食料の安全性を高めます。

②食料自給率の向上をめざし、日本と宮城県の農・水・畜産業とその加工業、及び生産者の暮らしを守る国民合意の運動を進めます。

③産消提携活動に積極的に取り組みながら、地域経済の活性化と文化の発展、自然環境の保全に寄与します。

以上の内容を「産消提携に関する基本協定書」として表し、みやぎ生協と協定を結んだ各団体は「宮城県産消提携推進協議会」を組織しています。1985年に初めてとり交わされた「協定書」は、現在

宮城県めぐみ野交流集会

第31回宮城県めぐみ野交流集会を、12月5日(水)仙台国際センターにて開催しました。メンバー・生産者・産消提携団体・お取引先様・生協職員の1,260名が参加しました。記念講演は、東北大大学院農学研究科准教授冬木 勝仁氏による「震災後の農畜水産業の情勢と「めぐみ野」の課題」について講演していただきました。多大な被害を受けた農畜水産業にみなさんが互いに励まし合いながら次世代へ継承ができるよう、未来を見据えた支援が必要だと話されました。

午後から10の分科会に分かれ交流メンバー・生産者のつながりの大切さをあらためて感じる集会でした。



第31回 宮城県めぐみ野交流集会

今まで これからも

1970年

角田市農協と鶏卵・
鶏肉・豚肉の取扱い開始

1970年、みやぎ生協の前身である宮城県民生協と当時の角田市農協で、「鶏卵」「豚肉」「鶏肉」の産直を始めたのが出発点です。当時の時代背景は経済成長の真っ只中で、経済効率ばかりが優先され、安全性についてはあまり問題にされていませんでした。抗生物質や抗菌剤などの投与が常識だった中、組合員の「安全でおいしい肉が食べたい」の声を受け、生産者もその声に応えようと努力を惜しまませんでした。反面、経済効率が悪くなるので、生産者の経営は厳しいものになっていました。そこで組合員は「生産者の生活が成り立つ価格」での供給を提案し相互合意しました。お互いの立場、環境を学び理解しあうこと。これが「顔とくらしの見える産直」です。この思いが今でも受け継がれています。



第28回 宮城県産消提携推進協議会総会

37の団体と締結しています。

そして、生協のメンバー(組合員)と協議会の会員はお互いに交流し、学習の機会を広めています。

「TPP(環太平洋戦略的連携協定)」参加反対

「TPP」へ日本が参加すれば、国内農林水産業の生産高が4兆5千億円減少し、食料自給率は14%に低下、農林水産業は壊滅的な打撃を受けることが予測されています。また、TPPは投資・サービス・医療・地方自治体・地方経済など広範囲な分野に影響が及ぶものです。東北6県の生協連とともに、みやぎ生協も参加に反対しています。

みやぎ生協では、メンバーのTPP学習会を17エリアで実施しました。めぐみ野品の重要性や食料・農業問題、TPPの本質について理解を広めました。



TPP学習会

めぐみ野の 恵みたち

[めぐみ野商品のご紹介]

生産者のひとこと。

角田苺部会

完熟してから摘む「めぐみ野いちご」の自然の甘みたっぷりの
おいしさをぜひ味わって下さい。



生産者のひとこと。

宮城県漁協 志津川支所カキ部会

多くの支援に感謝し、「日本一のかきをつくろう」を合言葉に復興に取り組んでいます。



◎めぐみ野 志津川湾產生かき

南三陸アリス式海岸の波静かな志津川湾で育てられています。
真水による加工処理をしないことで、かきがふやけず、剥きたての
美味しさを味わうことができます。



◎めぐみ野 いちご

宮城県の農薬・化学肥料節減農産物の認証を受けた「特別栽培農産物」です。農薬使用は一般的の半分以下で栽培しています。甘さと酸味が程よく調和した美味しさです。



◎めぐみ野 三陸産湯通し塩蔵わかめ

岩手県大船渡近海で養殖された肉厚で歯ごたえが良い
わかめです。しっかりと脱水してからパック詰めしている
ので、余分な水分や塩分は含まれません。



◎めぐみ野 ふるさと豚

黒豚と白豚をかけ合わせ、黒豚由来のおいしさを、お求めやすい価格でお届けしています。



◎めぐみ野 ほうれん草

秋から冬には「ちぢみほうれん草」という、葉
がボコボコしたものが出来ますが、甘み
が強くておいしいのが特徴です。



◎めぐみ野 豚

宮城県開発の「しもふりレッド」と白豚をかけ
合わせ、やわらかくクセのない美味しいになっています。

◎めぐみ野 梨

農薬使用を減らし、有機質肥料
中心の土作りと樹上で熟度を上
げた栽培を行っています。



◎めぐみ野 若鶏

飼料には全飼育期間を通して抗生素質や
合成抗菌剤を加えていません。めぐみ野の
豚、鶏、採卵鶏には国産の米を飼料に混ぜ
ています。



01

食品の安全・安心の取り組み



02

メンバー活動



03

事業活動



04

環境活動

顔とくらしの 見える産直を さらに広げました



「わが家の味噌作り体験」田植え作業

メンバー交流、学習、普及・支援活動

メンバーの産地見学・体験会は、54回実施し1,470名参加し生産者との交流をすすめました。また、「めぐみ野」品の特徴をお知らせし「めぐみ野」品の利用をすすめました。「秋のこ～ぶつどい」毎回のこ～ぶ委員会でのお知らせ、エイブルでの広報を行い、「めぐみ野」活動への理解を継続的に広げました。

◎「産消直結 めぐみ野」理解と「めぐみ野」品の普及

毎月の地産地消の日と全店および店舗のない3エリアでの「秋祭り」開催をとおして、「めぐみ野」品の普及活動を、専門委員会やこ～ぶ委員会で取組み利用拡大をすすめました。

◎「めぐみ野」生産者への支援活動

職員と全国の生協からの支援も受け、宮城県漁協志津川支所とJAいしのまきの「めぐみ野」生産者の復旧を応援するボランティア活動をすすめました。職員のボランティア活動は17回延べ296名、全国の生協は4生協・連合会、延べ13回、382名が参加しました。

メンバー募金として「めぐみ野」生産者の復興応援を2回取り組み、合計790万円が寄せられ、各団体に贈呈しました。また、コープしがや日本生協連などの全国の生協や、東銀座印刷出版株式会社様、株式会社あらた様、株式会社加藤産業様などのお取引様にも協力を呼びかけ、復興支援金として1,266万円や必要な機材・資材などを県魚協志津川支所に寄贈し、復興への支援を行いました。



宮城県漁協志津川支所「めぐみ野」生産者復興応援募金贈呈式



田んぼの生きもの調査



ミニ交流会

◎「めぐみ野」学習会・学習塾

2012年度は野菜・果物・水産・畜産・米・牛乳・鶏卵・納豆をテーマに17回開催し351名を超えるメンバーが参加しました。参加者からは、商品の比較で「めぐみ野」品の良さ、おいしさが実感できた、生産者の苦労が分かった（放射能対策）、などの感想が多数寄せられました。「めぐみ野」ミニ交流会は、10エリア（前年10エリア）で開催し、「めぐみ野」の共感づくりをすすめました。

今まで

これからも



「めぐみ野」(産直) 牛乳タオル1本運動

角田丸森牛乳 渡辺博さん

1991年から取り組んでいる「めぐみ野 牛乳タオル1本運動」は、2012年度は、鳴子上原酪農組合、角田丸森牛乳生産者に5,850本のタオルをお届けすることができました。

また、風評の影響もあり、震災前の実績数値より大きく落ち込んでいた、牛乳については、職員・メンバーの産地見学とメンバーへの生産者の安全・安心の取り組みをお知らせし、利用回復に繋がりました。



人と人がふれあう 機会をつくり 自主的でいきいきと したメンバー（組合員） 活動を進めています

メンバー（組合員）活動

参加者と一緒に楽しいひとときを

みやぎ生協のよさを知っていただき、地域でのふれあいや絆を深め合う場として初夏と秋に「こ～ぶのつどい」を宮城県内各地域で開催しました。歩いてでも参加できるように店舗のみならず、仮設住宅や地域の集会所などでも実施しました。

参加したみなさんに楽しく学んでいただく“わいわい”の企画も、「めぐみ野」生産者やお取引先様、行政やNPO、地域の福祉施設などのご協力も得て充実した内容で企画することができました。

こ～ぶ委員会、こ～ぶのつどい、はん会

項目	2011年度	2012年度
こ～ぶ 委員会	委員会の数	324
	委員人数(人)	2,908
こ～ぶ の つどい	初夏のこ～ぶのつどい参加人数(人)	開催せず
	秋のこ～ぶのつどい参加人数(人)	12,005 11,518
はん会	紫陽花はん会参加人数(人)	開催せず
	秋桜はん会参加人数(人)	6,501 5,715
		6,406



サークル活動・カルチャー活動

2012年度よりあつまる・つながることに価値觀をおいたコミュニティの活動として「サークル活動」「カルチャー活動」がスタートしました。

「サークル活動」は、くらしや趣味をとおしてわいわいする活動、「カルチャー活動」は生協に登録した講師のもとで趣味や文化活動をとおしき生き生きと楽しむ活動です。「サークル」「カルチャー」あわせて約5,400名のメンバーが定期的に、メンバー集会室を会場に生き生きと活動しています。



カルチャー活動の様子 ヨガ教室

◆メンバー活動の詳細はこちらからご覧になれます。<http://www.miagi.coop/member/>

01

食品の安全・安心の取り組み

02

メンバー活動

03

事業活動

04

環境活動

メンバー活動の再開

◎楽しくてためになるこ～ぶ委員会活動をすすめています

生協のさまざまな取り組みについて学習したり、興味や関心のあることを企画して自分たちが楽しくためになるこ～ぶ委員会活動を年10回みんなで考えています。2012年度は震災で大きく減少したこ～ぶ委員を増やすために常に開かれた活動をすすめ、1年間で約200名のこ～ぶ委員を新たに迎えることができました。



めぐみ野梅を使っての梅干づくり講習会



環境月間の取り組み

みやぎ生協では、お取引先様の企業にご協力いただきメンバーを対象に商品学習会や工場・施設見学を実施しております。また、被災者支援として仮設住宅集会所での企画も実施いただき、住民の方々に喜ばれております。

2012年度 見学会にご協力いただいたお取引先様（順不同・敬称略）

●株ナリス化粧品 ●キリンビール仙台工場 ●株サイコウ ●株鐘崎 ●サンスター(株)

2012年度 学習会にご協力いただいたお取引先様（順不同・敬称略）

- 三菱食品(株) ●バスクリン(株) ●小川珈琲(株) ●服部コーヒー(株) ●UCC上島珈琲(株)
- 森永製菓(株) ●雪印メグミルク(株) ●株明治 ●カゴメ(株) ●大塚製薬(株) ●ユウキ食品(株)
- フジコ(株) ●太子食品工業(株) ●株みすずコーポレーション ●株MNリテールサービス
- 日清オイオリグループ(株) ●株ナリス化粧品 ●伊那食品工業(株) ●日本ハム東販売(株)
- 石井食品(株) ●エバラ食品工業(株) ●オタフクース株) ●ブルドックソース株) ●キッコーマン食品(株)
- ハウス食品(株) ●エスビー食品(株) ●株クラブコスマチックス ●住友スリーエム(株)
- 株マルハニチロ食品 ●ホクト(株) ●キリンレバレッジ(株) ●株ジェーシーコムサ
- 衛マックプランニング ●株マルキン ●株伊藤園 ●カタギ食品(株) ●白鶴酒造(株) ●サンスター(株)
- カルビス(株) ●株クレハ ●味の素冷凍食品(株) ●イトアンド(株) ●ライオン(株) ●株ナイアード
- 株ヤマダフーズ ●株ミツカン ●キユーピー(株) ●アサヒ飲料(株) ●株仙台水産
- 双日コスマティックス(株) ●クラシエホームプロダクツ販売(株) ●株日専連ライフサービス
- 伸栄商事(株) ●株アイケイ ●森永乳業(株) ●東北電力株石巻営業所 ●株志田金
- 株東急ハンズ ●株パールライズ宮城 ●株J・オイルミルズ'

食の活動と子育て支援

食の安全と食育、食生活の向上



食生活提案紙芝居

みやぎ生協では、メンバーの「安全安心な食生活を送りたい」という願いをもとによりよい食の環境づくりをすすめています。「食生活提案」では「『食』を大事に健康づくりをすすめています」として4つの基本テーマ「1. 楽しく、おいしく食べよう。2. バランスよく食べよう。3. 食に興味を持とう。4. 食の安全に関心を持とう」を軸に活動をすすめてきました。

5ADAY食育体験ツアーは、食育を通じて野菜や果物摂取の大切さを訴えていく運動です。食育インストラクターやお店の人にお話を聞き、「お買い物ゲーム」や「サラダ作り」で野菜や果物を直に見て、触って、味わい野菜や果物に関する知識をお店の売場を教室にして学びます。2012年度は、県内15校で44回実施され、1,412名の児童が参加しました。

◎たべるたいせつ料理教室

お米を主食にした日本型食生活の学習と、主菜・副菜のそろったごはんメニューの調理を気仙沼、蛇田店、ウィズ、白石店、岩沼店、の5会場で開催し、85名のメンバーが参加しました。



気仙沼での様子

◎食のかたりべ

みやぎ生協の食の政策をメンバーが学び、学んだことを他のメンバーに伝える「食のかたりべ」は49名が登録し、宮城県内各地で、各自が工夫をこらした活動を展開しました。

◎キッズキッチン・親子キッチン

子どもたちに食の大切さを考えてもらい、実際に親子や自分達で調理し、作り、食べる楽しさを感じ、カルシウムの学習をする料理教室を県内5ヶ所で開催し109名が参加しました。

◆2012年度の5ADAY食育体験ツアー開催の様子はこちらからご覧になれます。<http://www.miagi.coop/member/shokuiku/5aday/>



5ADAY 食育体験ツアー お買い物ゲーム

子育て世代を応援

◎子育てひろば

子育て中のお母さんがほっと一息つける場を20会場で提供し、また仮設住宅の集会所でも2箇所で開催しました。



子育てふれんず編集委員会

◎子育てふれんずニュース

子育て世代が編集委員で、旬な情報や興味関心のあるテーマが満載のニュースを年4回22,852名の会員に届けました。



子育てひろば

マミーサポートルーム

◎幼児一時預かり

蛇田店(石巻市)にあるマミーサポートルームでは震災復興支援利用料金半額サービスやプレ保育を実施しました。

くらしと豊かな地域づくり

こ～ぶくらしの助け合いの会

高齢の方や子育て家庭からの「困っているので少しだけお手伝いをお願いしたい」という声に、活動会員が出来るときに出来ることでお手伝いをする「こ～ぶくらしの助け合いの会」では、2012年度も地域の中でたくさんの笑顔を広げる活動を行いました。

活動時間や会員数は2011年度の東日本大震災の影響で一旦減少したものの回復傾向にあり、安心してくらせるまちづくりのために役割を発揮できました。

活動会員を増やす取り組みでは、気軽に助け合いの会の内容を聞いて頂く場として「はじめて講座」を行いました。「自分の出来ることで何か人のために役立てたい」というメンバーが参加され、活動会員として登録していただき仲間を増やすことができました。

また、秋のふれあい活動では、「いかがお過ごですか」「困ったことはありませんか?」と日ごろ利用の少ない会員を、活動会員や地域のこ～ぶくらし委員会などと協力して訪問しました。訪問を受けた会員からは「気にかけてくれる人がいるだけで嬉しい」と大変喜ばれました。

今後は、さらに高まる期待にどう応えていくのか、活動を広げることを目的としたプロジェクトチームを立ち上げ検討を行います。



はじめて講座の様子(黒松店)



子育て家庭からの依頼も増えました



ふれあい活動を通して利用会員とのコミュニケーションをはかりました

こ～ぶくらしの助け合いとは

住み慣れたまちで暮らしていくために、困った時はメンバーどうし助け合いましょうと1987年に設立されました。活動は「やってあげる」「やってもらう」関係ではなく、お互いに対等な立場にたつため、利用会員の支援でもらう気持ちの負担を軽くするために有償(一時間600円と交通費)で行います。

会員になるためにはみやぎ生協のメンバーであること、入会時には1,000円(翌年以降は年会費1,000円)必要です。

会員数:活動会員830名・利用会員1,422名・賛助会員345名(2013年3月20日現在)

◆福祉に関する詳細はこちらからご覧になれます。<http://www.miagi.coop/member/fukushi/>



01

食品の安全・安心の取り組み



02

メンバー活動



03

事業活動



04

環境活動

ふれあい活動

- 福祉共同作業施設とメンバー・地域住民との交流を目的にした、秋まつりなどへの福祉共同作業施設の出店が29エリア、のべ49施設で取り組みました。
- 高齢者と一緒に楽しいひとときを過ごす「ふれあいお食事会」が、桜ヶ丘店、セラビ白石店で開催され、330名の高齢者と203名のボランティアが参加しました。
- 福祉共同作業施設へのメンバーの見学は5回行われ、99名が参加しました。また、福祉共同作業施設の方を講師にお迎えした「さわり織り」体験の出前講座も実施しました。

平和とくらしの見直し活動

ヒロシマ平和行動



ヒロシマ平和行動に参加された皆さん

8月4日～6日に、親子3組、個人2人を派遣し、報告会を8月18日に開きました。参加者は32人でした。被爆者が高齢になり「今、証言を聞いた人が被爆の実相を広めていかなければ」との思いと、ピースナイターで球場全体が緑一色となり赤のピースラインが作られたとき観客が一体になったと感じたことが報告されました。

◎そのほかの取り組み

戦争遺跡をめぐる「榴岡公園に行つてみよう」(38人)「仙台戦跡ガイドブック(青葉山編)」(21人)を実施し、また、仙台空襲体験を聞く会(35人)、被爆体験を聞く会(26人)を開催しました。



仙台戦跡めぐり

◆平和とくらしに関する詳細はこちらからご覧になれます。<http://www.miyan.coop/member/heiwa/>

福祉共同作業施設への支援

- ふれあい製品のお店「はあと」

セラビ幸町店にあるふれあい製品のお店「はあと」は「仙台市障害者販売業務訓練等事業」を行う場所の一つです。福祉施設で作られた製品の展示・販売が行われ、障がいのある方が店舗での販売・接客を通して一般就労に向けた経験を積み、社会体験や人間関係など視野を広げる機会となっています。また、訓練生とパートさんが昼食をとる間のお店番ボランティアに、のべ309人が協力しました。

- 「ありのまま舎」会報折り込みボランティア

西多賀にある「ありのまま舎」で毎月発行している会報の折り込み作業に、のべ35人がボランティアで協力しました。



沖縄戦跡・基地めぐり報告会

○沖縄戦跡・基地めぐり

3月27日～29日に、親子1組、個人6人を派遣し、4月7日に報告会を開きました。

参加者は44人でした。親子の参加者は「対馬丸のように沈められた船が35隻もあったとは知らなかった」と報告。平和の礎などを見て24万人を超える人が戦争で死んだことを知って戦争は絶対にしてはいけないと強調していました。



仙台戦跡めぐり

みやぎ憲法九条の会の活動

平和と憲法9条を守るためにみやぎ憲法九条の会の活動を支援しています。

10月28日(日)仙台国際センターにおいて、みやぎ憲法九条の会主催の「憲法9条を守り生かす宮城のつどい2012」が開かれ、1,900人が集いました。

ノーベル賞作家の大江健三郎さんが、「『本質的なモラル』ということ」と題して講演し、『本質的モラル』とは、次の世代が生きていける世界をつくっていくことと話されました。その後に「荒川知子とファンミーリーアンサンブル」のコンサートがあり、知子さんの美しいリコーダーの音色に感動していました。



9条の会つどい大江さん

消費税率引き上げをやめさせる

「消費税率引き上げをやめさせるネットワークみやぎ(62団体164個人)」とともに、年間を通じて学習会、議員要請、新聞への意見広告、街頭行動などに取り組みました。

メンバーと職員1,236名で「1ヶ月の消費税しらべ」に取り組み、消費税の負担の大きさを実感しました。

3月には、所得税・社会保険料なども含めた増税ラッシュでくらしがどう変わるかを学習し、税率引き上げ反対の必要性を再確認しました。

◎消費者力向上の取り組み

消費者力アップを目的に「契約」「環境」「生活再建」などをテーマに5回の学習会を開催、のべ370名が参加しました。仮設住宅を

訪問し消費者被害防止の出前講座を行いました。また、集団的消費者被害救済制度の学習に取り組みました。



消費者力アップ講座

地域社会への貢献

国際協力の取り組み

購入を通して貢献できる身近な国際協力活動として、1999年より協同購入カタログで「フェアトレード商品」を取り扱っています。また、メンバーの意見を商品選考に反映させるために「フェアトレード商品検討会」を開催し、2会場で69人の参加がありました。「買うことで貢献できるのが嬉しい」などの感想が寄せられました。



3月11日 古川商店会場

2011年度からは、国際協力NGOの特定非営利活動法人「ハンガーフリー・ワールド(HFW)」と連携し、開発途上国の自立を支援する活動にも協力しています。



11月15日 フォレスト仙台会場

01

食品の安全・安心の取り組み

02

メンバー活動

03

事業活動

04

環境活動

ユニセフの取り組み

開発途上国の子どもたちの命と未来を支えるユニセフ支援を継続して取り組み、特に東日本大震災での感謝を込め、ハンド・イン・ハンドや対象商品を購入することでユニセフに協力するキャンペーンも行いました。



ハンド・イン・ハンドで募金協力を呼びかけました

◎指定募金『ネパール・地域主体の女性と子どものためのプログラム』および、『CO-OPコアノン・スマイルスクールプロジェクト』でアンゴラの教育支援に協力

開発途上国の現状を視察する「ユニセフ・スタディツア」にみやぎ生協を代表して、地域代表理事が参加し、県内各地で報告会を開催しました。ネパール、アンゴラそれぞれの子どもと女性を取り巻く現状と、募金協力による成果を伝え、引き続きの支援を訴えました。



ネパール・スタディツア
子どもたちによる「野外排泄禁止」のためのミュージカル



アンゴラ・スタディツア 30年の内戦を経て、今は学校へ通える子どもたち

みやぎ生協では、ユニセフが実施するアンゴラ共和国の『子どもにやさしい学校づくり』を支援するため、日本生活協同組合連合会と一緒に「CO-OPコアノン・スマイルスクールプロジェクト」を2010年11月より実施しています。コアノンロール（トイレットペーパー）1パック購入で1円がユニセフに寄付されるというものです。

■2012年度ユニセフ募資金額

メンバーからの一般募金	6,149,357円
お取引先様キャンペーン募金	919,053円
牛乳パック回収による募金	2,603,213円
ペットボトルキャップ回収による募金	64,527円
合 計	9,736,150円

■ユニセフ募金応援キャンペーンにご協力いただいたお取引先様

2012年度第1期（10月～11月）：60社、第2期（2月～3月）：60社（順不同、敬称略）

(株)J-Oイルミルズ、UHA味覚糖（株）、アース製薬（株）、アサヒフードアンドヘルス（株）、(株)あらた、伊藤ハムデイリー（株）、江崎グリコ（株）、エスビー食品（株）、エバラ食品工業（株）、大塚食品（株）、大塚製薬（株）、オタフクソース（株）、オハヨー乳業（株）、花王カスタマーマーケティング（株）、カゴメ（株）、(株)かね真、上山製紙（株）、カルビー（株）、関越産業（株）、カシワ（株）、キーコーヒー（株）、キッコーマン食品（株）、銀河フーズ（株）、クラシエホームプロダクツ販売（株）、国分（株）、小山産業（株）、サッポロ飲料（株）、ジェイティ飲料（株）、ジバパンフレー（株）、昭和産業（株）、(株)スマифル（株）、仙水デイリー、太子食品（株）、滝沢ハム（株）、(株)千鳥屋製麺所、(株)東流社、日清食品（株）、日本水産（株）、日本生協連、日本製紙クレシア（株）、日本製粉（株）、日本ハム東販売（株）、ネスレ日本（株）、ハウス食品（株）、はごろもフーズ（株）、(株)バスクリン、ハナマルキ（株）、(株)不二家、ブリマハム（株）、(株)マルハチ、(株)マルハニチロ食品、丸大食品（株）、丸美屋食品工業（株）、(株)ミツカン、三菱食品（株）、明星食品（株）、(株)明治、モランボン（株）、森永製菓（株）、森永乳業（株）、(株)ヤクルト本社、ヤマサ醤油（株）、(株)ヤマダフーズ、雪印メグミルク（株）、ユニチャーム（株）、ライオン（株）、理研ビタミン（株）、(株)ロッテアイス、ロッテ商事（株）、(株)渡辺水産、協同乳業（株）、丸永製菓（株）、三幸製菓（株）

アンゴラの子どもを取り巻く状況や教育現場などを観察するため、2012年10月にユニセフ・スタディツアが実施され、みやぎ生協の鳥田理事が代表として参加しました。2013年1月10日仙台市市民活動サポートセンター・セミナーホールにて「私の見たアンゴラ」と題し、ユニセフ・アンゴラ・スタディツアの報告会を開催、56名が参加しました。

2013年10月まで、コアノンロールを対象商品とした第3期のプロジェクトが現在進行中です。



行政への各種委員の就任

みやぎ生協は、行政などの要請により、審議会や協議会の委員として、多くの役職員・メンバーが就任し、活動しています。

- 気仙沼市総合計画審議委員
- 柴田町ふるさと環境町民会議委員
- 宮城県認知症ケア推進会議委員
- 仙台市食品安全対策協議会委員
- 宮城県民間非営利活動促進委員会委員
- 宮城県農村振興施策検討委員会委員
- 東北農政局豊かなむらづくり審査会委員の委嘱
- TPP阻止大崎連絡会の世話人
- 経産省IT融合補助事業評価委員
- 平成24年度 食料生産地再生のための先端技術展開事業に係る自主表示検討委員会
- 宮城県先進的低酸素地域モデルの構築に向けた検討委員
- せんだい・みやぎNPOセンター評議員
- 卸売市場審議会委員
- 平成24年度東北地区水産研究所運営会議外部委員

第2章 メンバー活動

こ～ぶほっとわ～く基金

2012年度は、17団体に299万円の助成を行い、これまでの助成累計はのべ354団体6,652万8,950円になりました。



2012年度上期こ～ぶほっとわ～く基金贈呈式

こ～ぶほっとわ～く基金助成団体一覧

2012年度上期 助成数:9団体 助成金1,300,000円

石巻身体障害者 歩む会 「石巻身体障害者「歩む会」車いすダンス活動による自立と社会参加」
みやぎくりはらこどもねとわーく 「子育て支援事業 クリハラ子ども遊びランドの備品購入」
障害者社会参加劇団 劇団ファットブルーム 「宮城野文化センターオープニング記念参加事業 劇団ファットブルーム第5回公演「あひるはばたく」」
とつおきの広場 「パソコン教室の機器と環境整備の機具の購入」
特定非営利活動法人 しばた子育て支援ゆるりん 「子育てひろばの施設整備」
認定NPO法人みやぎ発達障害サポートネット 「非常時の安心マップ整備事業～発達障害の特性に応じた支援から～」
尚絅学院大学・八巻研究室内「わらべのつどい」 「仮設住宅で居住する高齢者への寄り添い支援活動」
特定非営利活動法人雲母俱楽部 たはく雲母俱楽部(たいはくきららくらぶ) 「障がい者が行う地域貢献プログラム」
特定非営利活動法人グッドニュース・プロジェクト 「平成24年度石巻市立雄勝小学校「放課後歌声広場」」

今までも これからも

こ～ぶほっとわ～く基金

1992年、みやぎ生協設立10周年を記念して創設されました。年に2回、宮城県内で地域福祉向上のために活動している団体や個人を支援・育成するために助成しています。助成対象となるのは、高齢者、障がい者、児童のため「生活の支援」「施設づくり」「住みよい社会づくり」などの非営利な事業に助成をしています。2013年度は、新たに「こ～ぶほっとわ～く助成金」として活動支援を行っていく予定です。

2012年度下期 助成数:8団体 助成金1,690,000円

つるがや元気会 「つるがや元気まつり」の開催」
特定非営利活動法人 子育て支援アシスト・エフワン 「深めよう親子の絆 「障がい児を持つ親」「一人親」支援」
けやきグループ 「業務用エアコン(厨房用)一式設置費用」
日本障害者ピアノ指導者研究会 宮城支部 「みんなの楽しいチャリティーコンサートin仙台」
わらべっこ 「出張託児」の拡大と研修サロン活動の推進」
とつおきの広場 「暖房器および卓球台購入」
特定非営利活動法人 野のゆりホーム 「大切な人の事を思う。「いのち」」
復興支援団体プラスネオ 「東日本大震災での被災者への生活再建支援及び地元コミュニティ形成支援活動」

社会福祉協議会表彰など

こ～ぶくらしの助け合いの会活動をはじめとする福祉活動の功績に対して、平成24年度宮城県社会福祉協議会会长表彰、並びに仙台市社会福祉協議会会长表彰を受賞しました。



■宮城県社会福祉協議会会长表彰
奥山 和子
こ～ぶくらしの助け合いの会 元コーディネーター



■仙台市社会福祉協議会会长表彰
三浦 由起子
WEEK読み上げボランティア

募金

◎「みやぎの子どもたち“生きる力(思い出)づくり” 支援基金プロジェクト募金」

東日本大震災により精神的ストレスをかかえた宮城の子どもたちが、これから未来に夢や希望が持てるような楽しい企画を仲間と一緒に経験できる心に残る企画を提供するため、「みやぎの子どもたち“生きる力(思い出)づくり”支援基金プロジェクト」募金に取り組みました。お寄せいただいた募金は、小中学生を対象とした工場見学・農場体験などの企画実施に役立てました。

取組み期間

2012年5月21日から6月15日まで

総額

1,333,396円

◎「九州北部豪雨募金」

7月上旬の九州北部における記録的な豪雨により被災された方々の生活支援のため、「九州北部豪雨募金」活動に取り組みました。お寄せいただいた募金は、日本生協連または各県生協連(大分県・熊本県・福岡県)を通じて、被災された方々の生活再建への義援金として贈呈しました。

取組み期間 2012年7月24日から8月20日まで

総額

463,593円

◎「こ～ぶほっとわ～く基金募金」

昨年の東日本大震災以降、多岐に渡って拡大している活動を支援するために「こ～ぶほっとわ～く基金」募金に取り組みました。お寄せいただいた募金は2012年度下期助成枠(2013年3月贈呈)の中に組み込み、通常の助成金枠に追加した金額での助成検討を行いました。

取組み期間 2012年12月1日から2013年1月31日まで

総額

468,696円

01

食品の安全・安心の取り組み

02

メンバーアクティビティ

03

事業活動

04

環境活動

文化会館アイトピア OPEN

みやぎ生協文化会館アイトピア（通称アイトピアホール）は、震災で閉店したアイトピア店を改修し、石巻の文化とコミュニティ再生のための拠点として、10月27日にオープンしました。

オープン当日はたくさんの地域のみなさんが集まり、期待の大きさを物語っていました。震災でたいへんな被害を受けたアイトピア地域を、市民と商店会などのみなさんと協同で復興をすすめ、まちに元気を取り戻す様々な取り組みを行っています。



文化会館アイトピア

30周年被災地・被災者支援

◎みやぎ生協は、2012年で30周年を迎える30周年企画として、地元宮城が元気になるよう復興の一助となるよう以下について支援しました

◎渡部絵美スケート教室

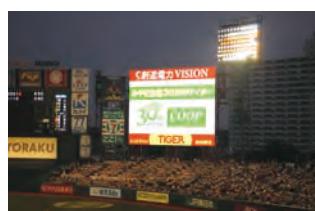
3月31日、アイスリンク仙台で被災地の子どもたちを招待した「渡部絵美スケート教室」を支援しました。



スケート教室の様子

◎みやぎ生協30周年ナイト「笑顔deナイト!!」

7月29日（日）30周年ナイトを開催、被災地の小学生、少年野球チーム、メンバーなど約500名を招待や公益社団法人プランジャパンに協力し、「未来を写そう！」と題し、石巻開北小、女川第二小の生徒が撮影した「生まれた絆」、「復興の芽」、「将来の夢」をテーマとした写真展も開催しました。その他、当日先着プレゼントなど、笑顔あふれる一日となりました。



30周年ナイトの様子



プランジャパン「未来を写そう」プロジェクト写真展



◎30周年を記念しての新聞1ページ広告を掲載しました

◎東日本大震災から2年目を迎えた3月11日に新聞1ページ広告を掲載しました



◎宮城県スポーツ少年団軟式野球交流大会

毎年恒例の河北優勝旗争奪「宮城県スポーツ少年団軟式野球交流大会」について、開催に向け、子どもたちが元気になるよう、特別協賛しました。



みやぎ生協は、スポーツ少年団軟式野球交流大会を応援しています。

おかげさまで30周年を迎えることができました。

30th
みやぎ生協
みやぎ生活専門組合

その他「未知ノ国守ダッチャー」のイベント、日専連主催の「親子ふれあい教室（産直ツアーアー）」、「女川のど自慢大会」、「第32回全日本実業団対抗女子駅伝大会」、河北新報主催の「伊達な祭り」、「今できることプロジェクト」など多数支援しました。



愛子店 ダッチャーアイベント



メンバーのくらしと 地域の復興のために

店舗



◎ミイカ

カード型の商品券「MiiCA(ミイカ)」を2012年5月より導入しました。

12月までに7千枚を超える発行で1億6千万円のご利用を頂いています。何度も入金して使えることから、ギフト用だけでなく自分使いのご利用も増えています。



MiiCA【ミイカ】
みやぎ生協のギフトカード

◎カートインスキナー

レジ精算時に買い物カゴを買物カート車から持ち上げることなく、より楽にそして便利にお買物が出来るよう2012年8月から順次導入し17店舗へ配置しました。2013年度は39店舗まで拡大し、より一層「高齢者に優しい店舗作り」を進めていきます。



カートインスキナー

◎コープポイントが暮らしをお得にイキイキさせています

お買物金額300円ごとに1ポイントを進呈するコープポイントが人気です。毎週土日及び毎月1日には2,000円以上のお買上げでポイントが3倍又は5倍になるお得なサービスも実施しています。

2013年はコープトリプルカードで2,000円以上の
ご精算の場合、毎日ポイント2倍となる
キャンペーンを開始し、さらにお得で便利な
ポイントサービスをご提供していきます。

**COOP
point**

◎アルミカート導入

「高齢者に優しい店舗作り」の一環として、より軽く・より楽に動かせるアルミ製の買物カート車を2012年度迄に26店舗へ導入し、メンバーから好評を頂いています。



アルミカート





01

食品の安全・安心の取り組み



02

メンバー活動



03

事業活動



04

環境活動

古川南店の開店

2012年1月初旬の一旦閉店から9ヶ月間を経て、9月27日に再開店しました。売場面積を450坪とコンパクトにしながらも日常のお買物が十分できる様にしました。メンバーとの対話からニーズを捉え「地域一番の生鮮」と「高齢者に優しい店舗」を目指して取り組んでいます。



開店セールの様子



生まれ変わった古川南店

石巻渡波店の開店

東日本大震災で津波被害を受け2011年10月一旦閉店し、建替えをすすめてきた石巻渡波店が2012年12月14日に再開店しました。メンバーからは「開店の日を待っていました」と激励と期待のお言葉を沢山いただきました。渡波地域は、震災から約2年経過していても復旧・復興は、まだまだこれからという状況にあり、客数はまだ予算に届いていない状況ですが、生鮮品を中心に鮮度・品揃えで「地域一番店」と「高齢者に優しい店舗」を目指して取り組んでいます。



石巻渡波店の開店の様子



開店セールの様子

共同購入

TKLC(富谷共同購入物流センター)の燃料基地

TKLC(富谷共同購入物流センター)の敷地内に軽油・ガソリンの燃料基地を設置し、災害発生時でもメンバーへのお見舞い活動や通常配達業務を継続できるようにしました。また、災害による停電時でも燃料基地が稼動できるよう自家発電機も設置しました。支部にはガソリン式簡易発電機、LPG式簡易発電機、車載用給水タンク、災害備品などを配備し、災害発生時においてもいち早く支援のための緊急行動がとれるように準備を進めました。



TKLCガソリンスタンド

◎事業継続に向けた商品手配の準備

地震等の災害発生時に出来るだけ早くメンバーに商品をお届けできる様に、「災害を想定し商品を限定したチラシ」を作りました。お取引先様に協力を頂き、このチラシに掲載した商品は、常に商品手配が出来るように準備をしています。



災害時の限定チラシ

◎めぐみ野生産者を応援

放射性物質による風評被害で苦しむ、めぐみ野生産者を応援する為、配達担当者の产地学習会、商品学習、注文書添付チラシでの特集を計画的に進めました。



产地学習会の様子

くらし復興の支援

◎東北地方の復興応援に向けて

毎月「復興応援がんばろう東北」別チラシを発行しました。東北地方に工場のあるコープ商品を紹介し、「コープ商品を利用することで、東北の復興を応援しましょう」との呼びかけを行いました。このチラシには東北各地の被災者された方による手作り商品のコーナーを設け、南三陸・志津川で作った「ゆめ多幸鎮オクトパス君」が267個、岩手県の被災者が製作した『浜のミサンガ環』は407個の受注を頂きました。

また「頑張ろう東北!復興応援お魚セット」を定期的に企画して、福島県相馬市・宮城県石巻市などの水産加工品の詰合せも定期的にご案内しました。

またサンネット産直の生産地JAきたみらい(北海道北見市)の生産者がみやぎ生協石巻支部のトラックに同乗し、お見舞い活動を行いました。



「復興応援がんばろう東北」チラシ

くらしのサービス

共済事業

◎被災地での講演会を実施しました

共済センターでは、メンバーが暮らしの保障やお金について学ぶ活動「ライフプランニング活動」を支援しています。その活動の一環として、ファイナンシャルプランナーによる「くらし見直し講演会」を実施しました。家計管理や身近な保険について、震災での教訓にも触れながら易しく楽しく解説しています。普段はなかなか聞くことができない専門家のお話を、身近な生協で聞くことができるという評判が口コミで広がっています。今後もメンバーの要望に出来る限り応えながらお役に立てる情報を提供していきます。



講演会の様子

CFT部

2012年3月21日からみやぎ生協の一部門となりました。東日本大震災の影響で1年間の工場閉鎖を余儀なくされた豆腐工場は、2012年4月度から規模を縮小した形で「新豆腐・揚げ工場」として再スタート、大豆や作り方にこだわりをもったおいしい豆腐と油揚げを提供しています。またパッケージセンターのフリッシュセンター・ミートセンターは2012年7月に仙台市自主衛生評価事業(仙台HACCP)のレベル7の認証を取得することで、衛生管理レベルを向上させることができました。2013年度も品質管理レベルの更なる向上を目指し、より安全・安全な商品を提供していきます。



ミートセンター



豆腐工場の様子

住まいのセンター

◎太陽光発電の取り組みを強めました

住まいのセンターでは、自然エネルギーによる発電とCO₂排出を削減することで環境保全に貢献できる太陽光発電の普及拡大に取り組みました。

2012年度は、みやぎ生協の店舗店頭で、太陽光発電を導入した場合の発電量やコストなどをシミュレーションする「無料相談会」を延べ53回実施しました。また、コープの快適リフォーム情報誌「Reフレッシュ」でも太陽光発電の特集を8回掲載し宣伝を強めた結果、2012年度の成約件数は前年の3倍に伸びました。利用していただいたメンバーからは、「5歳の子どもがモニターを見て電気の使用状況に関心を持つようになり、節電に協力的になりました」という声を頂戴しています。2013年度はさらに普及拡大できるよう「無料相談会」を多くの地域で開催を計画しています。



アクアクララみやぎ生協

リターナブルボトル(回収再利用)を使用し、環境資源にも配慮した水宅配事業を展開しているアクアクララみやぎ生協。宅配しているアクアクララ水は、いざという時の家庭の備蓄水としても活用できます。

震災の教訓からみやぎ生協BCPと連動する取り組みを開始しました。東日本大震災ではライフラインが機能せず、自社製品製造のできない期間は長期に及んだこと、支援するお水に限りがあったことを教訓に、



地下水汲み上げ施設

今年度自社工場内に地下水くみ上げ施設と自家発電装置を設置しました。

新たに設置した施設を活用し、甚大な被害を及ぼす災害が起きた際は、新たに設置した施設を活用し、製品の提供や生活用水の提供を行う機能を担うことができるようになりました。



アクアクララ水製造工場

こーぷ福祉会

設立と歩み

「こーぷ福祉会」は、みやぎ生協の福祉の理念を介護保険事業で実践するために、みやぎ生協が設立母体となって1999年に設立され、2013年に14年目を迎えた社会福祉法人です。「心豊かで健やかな暮らしのお手伝い」「優しさと思いやりを持った人づくりのお手伝い」「ふれあいとぬくもりのあるまちづくりのお手伝い」を基本理念にいしのまき、緑ヶ丘、桜ヶ丘の3か所でデイサービスセンター、ヘルパーステーション、居宅介護を備えたこーぷのお家を設置しています。また、八乙女に居宅介護施設と福祉用具、桜ヶ丘と緑ヶ丘に訪問看護ステーションをそれぞれ設置しています。こーぷ福祉会を支える後援会員数171名、職員数は総勢186人です。

3つのデイサービスセンターでは、1ヶ月平均1,845名が利用し、のべ342名のボランティアがデイサービスセンターやこーぷ福祉会の活動を支えています。

2012年度の介護保険の改定ではデイサービスの利用時間が初めて改定された他、ヘルパーステーションの介護時間基準が短縮されるなど介護保険サービスレベルが引き下げられました。



デイサービスセンターの活動

◎こーぷ福祉会の2012年の取り組みの特徴は以下の3点です

1)8月に、地域の介護なくてはならない新しい事業所として緑ヶ丘訪問看護ステーションを開設しました。徐々に利用者が増加しています。



2)こーぷのお家いしのまきで被災者支援の一環として近所の仮設住宅の方々のふれあいの場として「福祉サロン」を第二、第四土曜日に開催しました。旬の食材を使った料理を作ったり、体操をしたり、いろんなものを作ったり、ふれあいの場を提供しました。2011年秋からのべ37回開催し、のべ598名の方が利用し、357名のボランティアが参加しました。また、奈良の共同福祉会とのご縁で大和郡山ロータリークラブの方々の支援で全国金魚すくい大会の石巻予選大会を実施するなど、全国の生協や生協が設立した社会福祉法人の物心両面での支援をいただきました。



福祉サロンの活動

3)仙台市の特別養護老人ホームの整備事業に応募しましたが、残念ながら選から漏れました。3年間の整備事業ですので、2013年度も引き続き応募します。

(人数は2012年2月現在)



全国金魚すくい大会 石巻予選会

学校部・

(株)宮城県学校用品協会

(株)宮城県学校用品協会とは:みやぎ生協100%出資の子会社。
県内の学校への教材販売や家庭学習教材・学習教室、
保険事業を取扱っています。

COOP授業に役立つ学習ガイド

学校部では、みやぎ生協で行っている、環境・食・福祉・ユニセフなどの活動から、学校での学習素材として使えるものを『COOP 授業に役立つ学習ガイド』にまとめて掲載し、県内全小・中各学校へお届けし情報を提供しています。

※ビデオ貸出し、資料提供・頒布、生協店舗や
取扱工場見学、生協事業所職場体験等の受入など



職場体験・見学の受入

職場体験実習・見学は店舗を中心に共同購入・学校部・ディサービスセンター・産直コースなどを設定しています。2012年度は職場体験・実習職場見学(176校)、食育体験店舗ツアー(14校44回1,412名)などの受入を行っています。

●職場体験・施設見学・体験学習のお申込手順

学校部受付【FAX】

研修受入窓口(人事教育部教育担当)

各事業所責任者に受入要請

研修先が決定

人事教育部から申込みいただいた学校の責任者の方へ連絡

学校教育に役立てられている教育助成制度

みやぎ生協子会社の宮城県学校用品協会では「小中学校の教育実践活動への助成を通して、宮城県内の学校教育の進展に寄与すること」を目的に、学校用品事業を通して生まれた収益の一部から「教育助成」を行い、さまざまな教育研究活動や授業に役立てられています。



学校用品協会後援の県書きぞめ展

学校教材販売、出版物支援事業

みやぎ生協100%出資の宮城県学校用品協会の学販部門は、県内すべての学校で使用する教材教具、備品、体育着などを取り扱っています。「よりよい教材をより安く」というテーマのもと、日常的に教育現場の先生方のご意見を聴き取り、児童生徒に役立つ、先生にとって指導しやすい教材の提供をモットーにしています。また、各小中学校教科研究会の編集、発行している出版物・図書の編集、販売支援をしています。代表的なものとしては、県小・中書写研究部会の書きぞめ手本作成印刷、書きぞめ展開催や仙台市小学校教育研究会編集発行の夏休み帳などがあります。

こ～ぶ家庭教育センター

幼児～中学生までの家庭学習教材販売、学習教室、英会話教室事業を通して、子どもたちの学力向上、家庭学習の習慣づけの支援活動を行っています。



学習クラブの様子



新学社「ポピー」・日本標準「はつらつ」

主な教育助成内容として、学校研究活動助成・教育講演会・講習会講師紹介・派遣などを行っています。



12年度研究活動助成金交付式 仙台市校長会席上で



01

食品の安全・安心の取り組み



02

メンバー活動



03

事業活動



04

環境活動

機関運営とコンプライアンス

外部によるチェック・指導

みやぎ生協が行う諸活動や事業は、下記のような外部によるチェック・指導を受けています。

■公認会計士
(会計処理、財務報告の適正化と監査)

■顧問弁護士
(法務の適正化、訴訟対応、職員からの内部通報の窓口)

■産業医
(職場の安全・労働衛生状況に関する調査・指導)

■監事会
(決算、理事の業務執行の監査)

■環境監査委員会
(環境活動に対する学識経験者・メンバー代表・監事による監査)

■外部環境審査
(ISO14001認証機関による審査)

■宮城県による指導検査
(生協法94条による)

公正な取引の徹底・コンプライアンス(法令遵守)

「公正な取引の徹底」はみやぎ生協の事業活動にとって、もっとも重要なものであると同時に、お取引先様に対する最大の責務です。私的独占の禁止及び公正取引の確保に関する法律(独占禁止法)の第19条(不公正な取引方法の禁止)及び、一般指定第14号(優越的地位の濫用)に抵触するような行為は、決して行いません。又、事業に関する法令等を遵守するための仕組み作り、関係者を対象とした学習会等を積極的に行ってています。

お取引先とのパートナーシップ

毎年6月、お取引先の協力をいただきながら「みやぎ生協の方針を聞く会」を開催しています。これは、お取引先にみやぎ生協の次年度の方針をご理解いただき、よりよきパートナーシップを形成していく一助とすることを目的としています。

1982年にみやぎ生協が設立して以来続いている会で、2012年度はお取引先約800社、1,200名の方々に参加いただきました。

2012年度トピック

1. 2012年度は東日本大震災からの復興のため、お取引先の協力もいただき被災者支援、地域産業復興支援を幅広く進めました。ボランティアセンターでの「ふれあいお茶会」の開催、手作り商品カタログの発行、「ふれあい便」や移動販売「せいきょう便」などによる買い物支援、「食のみやぎ復興ネットワーク」プロジェクト活動、小・中学生を対象にした様々な「子どもたちの思い出づくり学習プランなどです。

2. 震災で大きな被害を受けた古川南店と石巻渡波店の建替えが終了し、震災で閉店した閑上店とアイビア店を除く、46店舗の復旧が全て完了しました。

3. 高齢者見守り活動の取り組みを進め、県内35の全自治体と協定締結・合意しました。生協の社会的役割を發揮する活動として、また、応急仮設住宅などの一人暮らしの個人宅配利用者や、ご高齢の夕食宅配サービス利用者なども対象にし、行政との連携や協力も含めます。

高齢者ための見守りの取り組みに関する 協定締結式



高齢者見守活動、南三陸町との締結式

内部統制システム整備の取組み

みやぎ生協では2010年度より内部統制システム整備基本方針に基づき、毎年実行計画を作成し取り組みを進めています。その獲得目標は以下の3点です。

- 運営や仕事を行う上での「きまり、ルールなど」を明確にするとともに、そのとおりに出来ているかどうかを点検し、常に見直す。
- 事故や不祥事などの発生を予防し、メンバー(組合員)と社会からの信頼が増すように努める。
- 生活協同組合の価値や定義に基づき、公正で透明性の高い運営を進めることにより、全役職員のモラルアップと組織の風通しを良くする。



かけがえのない 自然・環境を 未来に残していく 取り組みを 進めています

理念・方針

環境理念

みやぎ生協は、メンバー(組合員)と職員の活動や事業における取り組みを通して環境負荷の低減と自然との共生に貢献し、持続的に発展する社会づくりに寄与します。

環境方針

みやぎ生協は、食料品、衣料品、日用品雑貨等の商品をメンバーに供給していることを踏まえ、環境理念を基に環境保全活動を進め、事業者としての社会的な責任を果たします。

- 1.「低炭素社会、循環型社会、自然と共生した社会づくり」の3つの視点で、メンバーとともに以下の4つの重点課題に取り組みます。
 - 1) 生協事業におけるCO₂の総量削減
省エネ機器、再生可能エネルギー、BDFなどの普及、拡大によるCO₂の総排出量での削減
 - 2) 事業からの廃棄物の削減・再資源化
事業及び家庭ごみの減量のための発生抑制、再利用、再生利用、熱回収などの推進
 - 3) 環境に配慮した地域社会の構築
市民(メンバー・生活者)、市民団体、自治体、行政などと環境に配慮した地域社会構築の推進
 - 4) 商品事業における環境配慮
みやぎ生協の産直品・地産地消商品、環境配慮商品の取り扱い強化
2. 環境に関する法規制及びみやぎ生協が受け入れを決めた要求事項(協定書など)を順守します。
3. 環境汚染の予防と自ら構築した環境マネジメントシステムの継続的な改善に努めます。
4. 全職員及び業務委託先に教育・啓発を積極的に行い、環境方針の理解と環境意識の向上を図ります。

みやぎ生活協同組合 専務理事 宮本 弘

◆環境に関する取り組みの詳細はこちらからご覧になれます。<http://www.miagi.coop/member/kankyou/>



01

食品の安全・安心の取り組み



02

メンバー活動



03

事業活動



04

環境活動

生協事業におけるCO₂の総量削減

2012年度のみやぎ生協のCO₂総排出量は39,479トンと2010年度の44,502トンから5,023トンの削減(10年度比88.7%)となりました。新店及び既存店に導入してきた高効率の省エネ機器や、デマンドコントロール等の効果があらわれています。また継続して実施してきた省エネ運用の取組みが、震災後の電力不足に対応して一層すすみ、全事業所で実施・維持されていることも要因となっています。



※2011年度は震災により多くの事業所が稼動できない時期があったことから2010年度と比較しています。

◎省エネ機器等の導入

既存店の冷凍・冷蔵機器や冷ケースの省エネタイプへの交換、LED照明への集中交換を実施しました。導入した省エネ機器による効果は従来機器と比較して電気使用量で年間3,007,023kwh(1,272トン-CO₂/年)の削減になります。



多段照明を省きLEDのオーバーキャノピーに変更



駐車場照明のLED化

◎自然冷媒冷凍機の導入

古川南店に自然冷媒(CO₂冷媒)を利用した冷凍機の導入を行ないました。CO₂冷媒は現在最も多く利用されているトン類に比べ地球温暖化係数が低く温室効果ガスの削減に寄与します。



自然冷媒(CO₂冷媒)

2012年度トピック

◎震災で被害のあった2店舗を「エコストア」として建替えました

店舗のエネルギー使用とCO₂排出総量削減に向けた「エコストア・コンセプト」を策定しています。2004年度に建設したタイプの店舗と比較し、CO₂排出量を約40%削減することを目指し、震災で被害のあった古川南店と石巻渡波店を、最新の省エネ機器を導入した「エコストア」として建替えました。



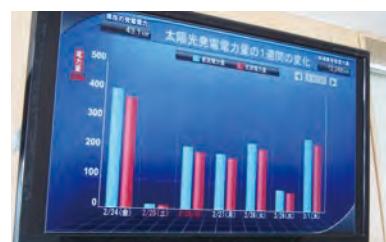
古川南店



石巻渡波店

◎太陽光発電設備を新たに3事業所に設置しました

12年度新たに古川南店(30kw)、石巻渡波店(30kw)と本部(20kw)に設置し、全体で9事業所350kwの能力となりました。総発電量は336,468kwhでCO₂削減量は142トンでした。発電分は各事業所で自家消費されるとともに、停電時の非常用電源としても活用されます。



太陽光発電モニター

◎低燃費車両とEV車両の導入促進

ハイブリッドトラックを新たに2台導入し8台、電気自動車は2台増車し4台となりました。電気自動車用充電スタンドを5基増設し14基(本部5基、宅配支部9基)としました。



EV車両と充電器

◎バイオディーゼル燃料(BDF)への切替え

店舗の廃食油を精製したBDF(バイオディーゼルフューエル)を使用した車両は、宅配4支部の配送車とリサイクルセンター車両を計10台増車し30台となりました。軽油代替燃料として使用したBDFの量は37,420lで、CO₂換算で98.2tを削減したことになります。



BDF燃料を使用した車両

事業からの廃棄物の削減・再資源化

廃棄物の削減・再資源化の取り組み

事業所から排出される廃棄物を削減するために、店舗では商品の廃棄ロス額削減の取り組み、リサイクルセンターでは、店舗の一般ゴミに含まれる食品ゴミの組成調査を行い、食品ゴミ混入率基準の見直しと分別を促しました。

また、商品の容器包装の低減化や簡易包装、ノートレーの取り組みなど継続して行ないました。

再資源化では、今年度再資源化物を1アイテム拡大の目標で取り組み、水事業の12ℓボトルを新たに再資源化する事が出来ました。

リサイクル率の推移



みやぎ生協リサイクルシステムの全体フロー



水事業廃棄ボトルの資源化

古紙リサイクルポイントシステム

家庭ごみ削減の取り組みの一環として「古紙リサイクルポイントシステム」を2010年度に8店舗設置し、実施店舗周辺のメンバーから好評をいただきました。その後、各店舗への設置を望む声が多く寄せられ、2011年度は15店舗設置。2012年度は9店舗設置し、合計32店舗と拡大しました。

「古紙リサイクルポイントシステム」はメンバーが来店の際に古紙（新聞紙、チラシ、雑誌など）を持参し、店舗敷地内に設置した計量器付コンテナで重量を計測、その重量に応じてポイントが貯まり、一定ポイントになると、みやぎ生協の「割引券」が発行されるシステムです。



古紙リサイクルポイントシステム

家庭用廃食油リサイクル

家庭から排出される使用済みてんぷら油等を回収し、BDF（バイオディーゼルフューエル）として行政の公用車等に活用する取り組みが行なわれています。

仙台市の「家庭用使用済み食用油リサイクルモデル事業」に協力し、桜ヶ丘店、高砂駅前店、榴岡店の3店舗で回収した廃食油は3,600ℓでした。1店舗月平均100ℓの回収を想定して実施してきた結果100ℓの回収と、想定値と同じ回収実績になっています。

名取市は名取西店が協力しています。前年回収量1,400ℓに対し、1,535ℓの回収で前年比109.7%、+135ℓ増加しました。廃油回収ルールも定着しており、他の事業者とともに市の3R推進に継続した協力を行なっています。



回収された廃食油



廃食油回収BOX

◆環境に関する取り組みの詳細はこちらからご覧になれます。<http://www.miyan.coop/member/kankyou/>



01

食品の安全・安心の取り組み



02

メンバー活動



03

事業活動



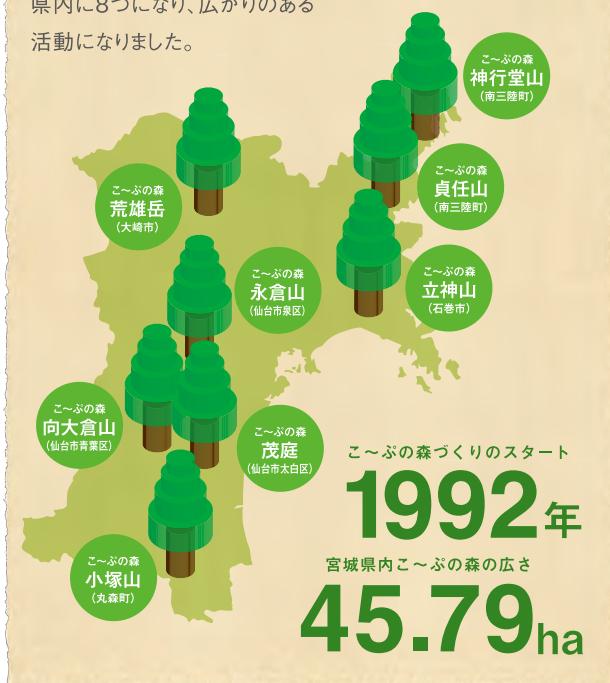
04

環境活動

環境に配慮した 地域社会の構築

“こ～ぶの森”的活動

宮城県内の自然と緑を豊かにするために、1992年から始まった“こ～ぶの森”的活動を通じて、これまで19.82haに52,839本の広葉樹を植栽してきました。2012年度からは生協所有林の「向大倉山」と「茂庭山」も加えて“こ～ぶの森”は県内に8つになり、広がりのある活動になりました。



生物多様性をはぐくむ“こ～ぶの森”

◎かきの森『こ～ぶの森神行堂山』(南三陸町)に みんなの力で植林しました

2011年は震災のため実施できなかった植林を、メンバー、職員、めぐみ野かき生産者、継続的に南三陸町の支援に参加している他生協、協賛企業の方々など160名の参加で、南三陸町の緑の再生に寄与し、被災地復興応援の思いを集めることができました。



5月13日「こ～ぶの森神行堂山」植林

◆こ～ぶの森の活動についての詳細はこちらからご覧になれます。<http://www.miagi.coop/member/kankyou/coop-woods/01.html>

2012年度トピック

◎年間を通じて家庭の省エネに取り組みました

原子力発電に頼らない社会を目指すためにメンバー・職員で家庭の「夏の節電・節水チャレンジ」、「冬の省エネチャレンジ」に取り組み、夏は2,660名、冬は1,579名の参加がありました。夏・冬取り組むことで家庭での省エネの定着を図ることができました。

(公・財)みやぎ環境とくらしネットワークが受託した環境省「節電コンソーシアム」とも提携しながら取り組みを進めました。



2012年冬の省エネチャレンジシート

◎学習講演会『これからのエネルギーを考える』を 県内3会場で開催しました

みやぎ生協は「原子力発電に関するみやぎ生協の見解」を公表しました。この問題の理解を深め、原発の問題点やこれからのエネルギーを考える学習講演会を仙台・大崎・大河原で250名の参加で開催しました。



大河原会場

長谷川 公一 東北大学大学院文学研究所教授
中田 俊彦 東北大学大学院工学研究科教授

◎生物多様性を育む活動をひろげました

“こ～ぶの森”へ多種類の広葉樹を植林することで、多様な生き物が生息する環境を整えています。また、豊かな生態系の保全を実感する機会として「水辺の観察会」や“こ～ぶの森”での体験会を5回開催し、計265名の参加がありました。



8月25日 南三陸町「森と沢の探検隊水辺の生きものさがし」

商品事業における環境配慮

環境配慮商品基準の一部変更

◎日本生協連の環境配慮商品基準の改定に伴い
みやぎ生協の環境配慮商品基準も次のように
一部変更しました

- ・日本生協連が環境配慮商品とする基準は、将来追加されるものも含め、自動的にみやぎ生協の環境配慮商品基準とします。
- ・産直品や県内生産品、地場商品などの域内自給を重視する立場から、「日本生協連の環境配慮基準」の認証は受けていませんが、それらの基準と同等の環境価値を持つ商品と見なせるものは、環境に関する表示の厳密性に従いながらも、みやぎ生協の独自の環境配慮商品としました。

・基準ではありませんが、「グリーン購入ガイドライン」等確立している基準で、みやぎ生協の環境配慮基準に取り入れた方が良いものも基準に含みました。

以上の基準は、3月21日から実施スタートしました。

MSC(持続可能な漁業のための原則と基準)
MSCマークのついた商品は、海の資源を枯渇させないよう、量や漁法・漁の時期などに配慮して獲った魚を原料としています。



FSC(森林管理の原則と基準)
FSCマークのついた商品は、環境保全の点から見て適切で、社会的な利益にかない、経済的にも継続可能な形で管理された木材を使用しています。



有機JAS
一定の基準で農薬や化学肥料に頼らずに作られた農産物とその製品です。



特別栽培農産物
生産された地域の慣行栽培レベルに比べて、節減対象農薬の使用回数が50%以下、化学肥料の窒素成分量が50%以下、で栽培された農産物です。



MEL(マリン・エコ・ラベル)
資源と生態系の保護に積極的に取組んでいる漁業を認証し、その製品つけるマークです。

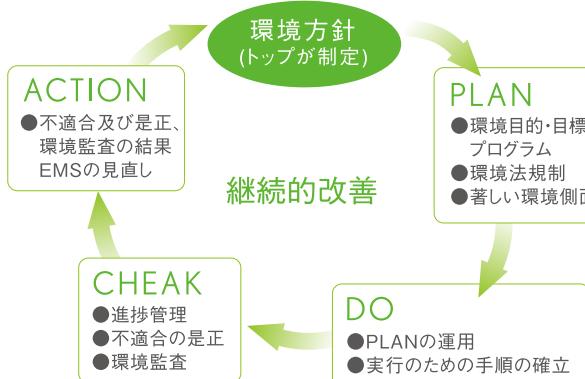


CFP(カーボンフットプリント)
環境への負荷を削減したことを示すマークではありませんが、商品の原材料の調達・製造から廃棄リサイクルまでのすべての過程で排出される二酸化炭素(CO₂)の量を商品に表示したものです。※CO₂の排出量は、商品によって異なります。



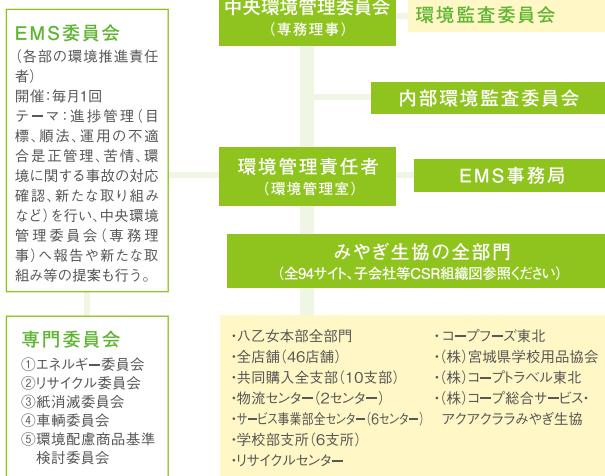
環境マネジメントシステムの推進(PDCAサイクル)

1998年度にISO14001認証を取得して以来、PDCAサイクルに基づくEMS(環境マネジメントシステム)を構築し運用しています。



◆環境に関する取り組みの詳細は下記のURLからご覧ください。
<http://www.miyan.coop/member/kankyou/>

環境管理体制





01

食品の安全・安心の取り組み



02

メンバー活動



03

事業活動



04

環境活動

外部環境監査、ISO審査、内部環境監査

外部環境監査

みやぎ生活協同組合

理事長 齋藤 昭子様

2013年4月20日

環境監査委員会

委員長 遠藤 智栄	大友 恵里子
委員 粟津 洋子	中田 俊彦
高橋 春男	渡辺 淳子
橋本 由紀子	

当委員会は、みやぎ生協環境管理規程第14条、同環境監査規程第6条および第7条の規定に基づき、みやぎ生協の環境管理および環境保全活動について、以下の通り環境監査を実施したので報告する。

【環境監査の実施日】

2012年 11月17日 2012年度上期環境監査(書類監査、「古川南店」の現地監査)

2013年 4月20日 2012年度環境監査(書類監査及び総合監査)

【監査報告書】

みやぎ生協とメンバーの環境保全活動の取り組みが前進したこと、および以下に述べる事項は評価できる。

【評価事項】

1. 被災地域を拠点とする生協として、引き続き環境活動に取り組み着実な成果を上げていること。
2. 新店舗2店を省エネルギー型モデル店とし、みやぎ生協同規模既存店舗と比較してCO₂を40パーセント削減できる店舗を作ったこと。
3. 省エネルギー型冷凍機やLED照明などを積極的に導入し、電力消費量を削減してCO₂削減目標を達成したこと。
4. 地方自治体等行政機関および地域の環境団体と連携協働し、環境・省エネルギー政策を積極的に推進したこと。特に古紙、廃食油のリサイクルの前進に寄与したこと。
5. リサイクルセンターの運用など廃棄物の地域循環のしくみを確立し、リサイクル率の向上に貢献していること。
6. めぐみ野(産直)商品の取り扱いを継続することにより、生産者の震災からの復興を支援したこと。

【指摘事項】

1. 電力等エネルギー消費量の詳細なデータを蓄積し、今後の環境配慮・省エネルギー型店舗設計に活かしていくこと。
2. 環境配慮商品基準の見直しを受けて、店舗や共同購入でこの基準を満たす商品の取り扱いを増やし、メンバー活動等を通じて広く周知すること。
3. みやぎ生協の環境活動の特徴や目標達成度を他団体や他生協と比較して明確にすること。
4. 膨大な環境活動の数値データをグラフ等を用いて「見える化」すること。

以上

ISO審査

- 実 施 日 2012年9月24日～9月27日
- 審 査 員 3名(日本環境認証機構)
- 審査結果 EMSマネジメントシステムの総合評価は向上
- 所 見 更新審査の結果、「組織の環境マネジメントシステムは規格要求事項に適合し有效地に実施されていると判断され認証の更新登録が行われました。不適合0件、改善提言6件、プラス評価5件

内部環境監査

- 実施期間 2012年7月13日～8月31日
- 監 査 員 27名 監査13チーム(2人)
- 監査所見 総数39件、重大0件、軽微3件、観察20件、プラス評価16件
- 監査結果 環境マネジメントシステムが、ISO14001:2004規格の要求事項に適合して構築され、適切に実施、維持されている
- そ の 他 内部環境監査員セミナーを開催し、新たに1名養成した

事業活動と環境のかかわり (input ◀▶ output)

2011年との比較を基本としますが、震災の影響で2011年度は、一部異常値もあることから、2010年度との比較を行いました。

エネルギー資源、水資源	
電力	7,423 (7,895) 万kwh
ガス (LPガス・都市ガス)	63 (74) 万m ³
水	38 (48) 万m ³
重油	496 (1,198) kℓ
灯油	206 (389) kℓ
ガソリン	220 (196) kℓ
軽油	750 (756) kℓ
車両LPG	64 (108) kℓ
BDF	37 (14) kℓ

※()内は2010年度の数値

◆低炭素社会構築に向け

生協事業におけるCO₂の総量削減に努めました

エネルギー関連は、ガソリンを除き減少傾向にあります。ガソリンの使用量が増えた要因は、営業車にガソリン車を増車したためです。また、軽油車でBDF燃料使用が可能な車両は、切替を進めました。

入口

みやぎ

供給高1,003

店舗
46店舗

共同購入
10支部・家電センター
成田SC

コープフーズ東北(CFT)
魚センター・ライン
肉センター・ライン
豆腐・揚げ・ライン

(株)コープトラベル東北

(株)コープ総合サービス・
宅配水センター

化石燃料の代替エネルギー・使用による
CO₂削減量(換算)

項目	2012年
BDF	98(37)t
太陽光	142(62)t
電気自動車	4.7(—)t

入口

出口

主な資材の消費



〈容器・包装材〉

レジ袋(紙袋含)	19 (19)t
ロールポリ袋	48 (44)t
包装紙	6 (8)t
簡易包装紙	0.4 (0.5)t
PS(発泡)トレー	94(123)t
PS(発泡)以外のトレー	158(125)t
ラップ	39 (38)t
その他のポリ袋	81 (81)t

〈紙類〉

コピー紙	121 (110)t
コピー紙以外の紙	5,819 (6,039)t

※()内は2010年度の数値

■環境会計

- ◆環境保全の投資コスト額:6億1,384万円(4億502万円)
投資の主なものは、昨年に引き続き太陽光、LED照明、高効率冷凍機などの省エネ設備の導入費
 - ◆費用額:4億49万円(3億5,553万円)
費用の主なものは、再資源化及び廃棄物の処理費や温暖化防止に伴う機器の維持管理費
 - ◆環境保全対策に伴う経済的效果(有益)
3億5,640万円(4億948万円)
再資源化による売却費や省エネによる電気料の削減等
 - ◆環境関連への寄付・募金
・緑の基金:825万円(アルミ缶、有料レジ袋、取引先様)
・ユニセフ:1,076万円(牛乳パック、ベットボトルキャップ)
・MELON:423万円(MELON商品券)
・環境保全活動:274万円(有料レジ袋) 計2,598万円
- ※()内は前年の数値、一部修正を行っています。

■環境に関する法規制とご意見

- ◆環境に関する法規制25項目、その他7項目あり適切に管理を行いました。
- ◆環境に関するご意見は12件でした。

主な項目	件 数
店頭リサイクル・古リサイクル等の要望など	7件
商品の容器・包装等の削減など	2件
レジ袋の品質など	1件
原発の見解と太陽光発電の導入など	1件
電気自動車のスタンド設置など	1件

◆事業から排出される排ガス 廃棄物の管理を推進しました

■地球温暖化に関する排出

※委託車両除く

事業上排出されるCO₂:
39,479t (44,502)t/CO₂

※2010年度より削減できたCO₂量 ⇒ 5,023t/CO₂

◆家庭から発生する排出物を
メンバーの協力で分別
再資源化を行いました

古紙回収ポイントシステムについては、2012年度に設置店を9店舗増やし、合計32店舗と大きく拡大し、キャンペーンの効果もあり回収量が増えています。また、共同購入でのチラシ回収量も大きく伸びました。

生協

億7,221万円
(981億4,683万円)

サービス保障事業

- サービスグループ
- 住まいのセンター
- プリ工案内センター
- 共済センター
- 共同保険センター

(株)宮城県学校用品協会
5支所、こーぶ家庭教育センター

車両使用台数

- ・ディーゼル車426(380)台
- ・BDF車14(6)台
- ・ガソリン車220(153)台
- ・LPG車16(41)台
- ・電気自動車(EV車)4台(0)台

レジ袋有料化により削減できた量と
CO₂削減量(換算)

資材	2012年
レジ袋削減量	4,667(4,971)万枚
CO ₂ 削減量	1,120(1,193)t

※()内は
2010年度の数値

再資源化(メンバー)

【店頭等の分別回収した再資源化量：13,506t】

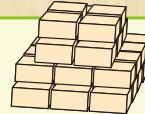


回収品目	回収量	リサイクル率	再資源化
ペットボトル	169(124)t	72.9%	再生原料
紙パック	205(218)t	125.5%	トイレットペーパー・古紙
トレー	145(149)t	57.5%	再生トレー
アルミ缶	77(68)t	37.3%	再生原料
共同購入チラシ	4,228(3,741)t	75.5%	古紙の原料
卵パック	38(38)t	40.0%	ペット原料
クリーニングハンガー	43(39)t	—	再利用
筒型乾電池類	3(3)t	—	原料化
ペットボトルキャップ	5(7)t	—	再生原料
古紙回収ポイントシステム	8,593(719)t	—	古紙の原料
仙台市古紙回収庫	64(1,488)t	—	古紙の原料

※()内は2010年度の数値

◆みやぎ生協の事業から発生する排出物を分別
再資源化を行いました

古紙回収の店舗拡大に伴い回収量が大幅に伸びました。また、共同購入のチラシ回収も伸び、順調に分別再資源化の取り組みが前進しました。



*事業系再資源化率=再資源化重量÷(再資源化重量+廃棄物重量)
・古紙含む 24,002.9t ÷(15,409.8t+4,221.3t)=122.3% (82.2%)
・古紙除く 15,409.8t ÷(15,409.8t+4,221.3t)=78.5% (80.0%)

品目	回収量	再資源化
紙	346(338)t	古紙に再生
古紙回収	8,593(719)t	古紙に再生
共同購入チラシ	4,228(3,741)t	古紙に再生
ビン・スチール・アルミ	114(131)t	再資源化
発泡スチロール	249(228)t	再生プラスチック
ダンボール	7,897(6,982)t	古紙に再生
食用废油	316(297)t	BDF
おから	364(1,151)t	家畜飼料
魚腸骨	225(401)t	家畜飼料・肥料
牛脂	198(145)t	油・飼料
揚げロス	17(34)t	家畜飼料
野菜果物クズ	755(766)t	堆肥化
廃プラスチック	182(165)t	高炉還元剤
粗大ゴミ	522(187)t	原料化
計(古紙含む)	24,003(15,285)t	
計(古紙除く)	15,410(14,565)t	

○食品リサイクル率

食品リサイクル量 2,002.5t ÷(食品リサイクル量2,002.5t+生ゴミ量2,847.4t)=70.3% (64.9%)

※引取り家電品

廃家電品排出量 336台(460台)

※()内は2010年度の数値

■廃棄物

廃棄物の排出量(再資源化以外)：
4,221t(4,026t)

※再資源化により削減できた廃棄物量
⇒15,410t(14,565t)

■CFT(食品加工場)からの排水

BOD排出量(20PPM以内)：
0.238t (0.519t)

※()内は2010年度の数値

みやぎ生活協同組合
CSR Report 2013 2012年度
社会・事業・環境活動についての報告書

発行日：2013年5月18日

発 行：みやぎ生活協同組合
〒981-3194 宮城県仙台市泉区ハ乙女4-2-2

お問い合わせ先

- 総務部機関運営課 TEL.022-771-1590 FAX.022-773-1821
- 環境活動に関する詳細は環境管理室 TEL.022-771-2461

HPアドレス みやぎ生活協同組合 <http://www.miyagi.coop/>

本報告書はホームページに掲載、ダウンロードできます。



みやぎ生協は、1998年から全店舗、店舗以外の全事業所と子会社で環境負荷低減のための環境マネジメントシステムであるISO14001の国際認証を取得し、継続して管理しております。